

公益社団法人

日本造園学会関東支部

第18回学生デザインワークショップ

# 水と土と空と生きる

# SUMMER WORKSHOP

REPORT

2022 9/3-18

～次世代につなぐ多古町の風景「郊外2.0」～

# 開催概要

## 開催趣旨

### 水と土と空と生きる ~次世代につなぐ多古町の風景「郊外2.0」~

千葉県の北東部に位置し、豊かな自然環境と田園風景が広がる多古町。

豊富な“水”と肥沃な“土”によりもたらされる多古米が有名ですが、“空”的玄関口 = 成田空港の東側に隣接し、世界に一番近い日本の田舎でもあります。

他の市町村と同様に人口減少と少子高齢化が進む一方、子育て支援の施策により移住者も多く、また、コロナ禍や新たな生活様式により、二拠点居住などでも注目されています。

近年では、町の中心部の多古台において、移住者の受け入れや子育て支援を目的とした開発が進められており、バスターミナルを中心として、戸建てや商業施設の開発、大型の子育て支援施設などが整備されています。

過去に幾多の糾余曲折を経て建設された成田空港は、2029年完成を目指した空港機能の拡張化計画が進められており、同時に圏央道の整備も行われています。多古町ではこれを契機として、町への新たな人口流入や産業誘致等の波及効果を期待し、地域と空港の発展による好循環を目指した地域づくりが検討されています。

そこで、2022年のサマスタは、成田空港の機能強化による様々な開発や影響を受け、岐路に立つ多古町において、“水(雨・地下水・川・海)と土(地形・水田・畑)と空(空港・気候・空気)と生きる”ことを再考し、次世代につなぐ多古町の風景「郊外2.0」を提案します。

提案対象地は、古くからの町の中心であり、今後の発展が期待される「多古町とその周辺」です。  
風景や自然環境にとっては、マイナスとなりうる開発のインパクトをプラスに変える提案を探求します。

## スケジュール

### 9/3(土) キックオフミーティング @ZOOM

- ガイダンス  
課題説明、参加者自己紹介、スケジュール説明

### ○多古町と提案敷地に関する情報提供

木内 雅巳  
多古町企画政策課 課長  
「ちょうどいい加減 多古町。」

井上 剛  
株式会社地域環境計画  
「生物多様性」からみた多古町の自然」

### ○ゲストより話題提供

石井 秀幸・野田 亜木子  
スタジオテラ  
「営みと暮らしを支える場づくり」

上條 慎司  
上條・福島都市設計事務所  
「まちのストラクチャーを考える」

伊藤 孝仁  
AMP / PAM (アンパン)  
「庭と都市のあいだで」

馬場 未織  
建築ライター・NPO法人南房総リパブリック  
「二地域居住の視点から、その土地の「本物」を考える。」

### 9/4(日)～9/9(金) プレサーベイ期間

- グループごとにワークショップに向けた準備作業

### ○チューターレクチャー

9/7(水)、9/8(木) 19:00～ @ZOOM  
提案敷地や課題に対する基礎情報と話題の提供

### 9/10(土)～9/18(日) ワーキング期間

- グループごとに案の検討、最終日に講評会

### ○コアワーキング

Day1 9/10(土) @多古町  
サーベイ結果発表・コンセプトの方向性確認

Day2 9/11(日) @多古町  
コンセプト・サイトプランの発表

Day3 9/17(土) @チューター事務所  
最終発表に向けたラフプランの発表

Day4 9/18(日) @多古町 + ZOOM  
講評会・クリティイーク・懇親会

講評者：キックオフミーティングのゲスト7名  
+多古町長 + 木下剛 支部長

### 12/18(日) 日本造園学会関東支部大会 成果発表

2月 まとめ本発行

### ○トークセッション

ゲスト・学生・チューターによるカジュアルなブレスト

# 目次

## ● 概要

### 開催概要・目次

P1

### 対象地～多古町～

P3

## ● 各チーム提案

### Aチーム

P5

### Bチーム

P11

### Cチーム

P17

### Dチーム

P23

### Eチーム

P29

### Fチーム

P35

## ● ゲスト講評

## ● 活動記録

### チューターコメント

P47

### 協賛企業紹介

P49

### 多古町の魅力

P53

### 編集後記 委員紹介

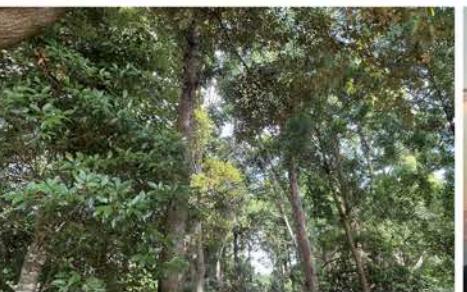
P55

# 対象地 ~千葉県多古町 多古台とその周辺~

今回の舞台である多古町は自然、生業、歴史、地形が織りなす様々な風景で溢れています。訪れるに実際に歩くからこそ、見つけられるたくさんの魅力に出会うことができます。そこで各班に「現地調査で見つけた多古町の魅力」についてインタビューを行いました。各班がどんな多古町の魅力を感じ、どのような提案を行っているのでしょうか。



A 橋から眺める栗山川  
虫取り少年と出会った思い出の場所。  
川辺で遊ぶ子供たちの声が多古町に響き渡る。



B 大宮大神横の獸道  
獸道を進んだ先に現れる木漏れ日が気持ちいい樹林地。差し込む光と緑のパワーを全身で浴びる。



C 広い空に映える飛行機  
台地の上から見る空の景色。遮るものがない広い空には成田空港を発着する大きな飛行機の姿が見える。



D これぞ谷津田  
森に囲まれた谷津田の風景。多古町の地形から生み出されるこの風景こそ昔ながらの多古町の魅力である。



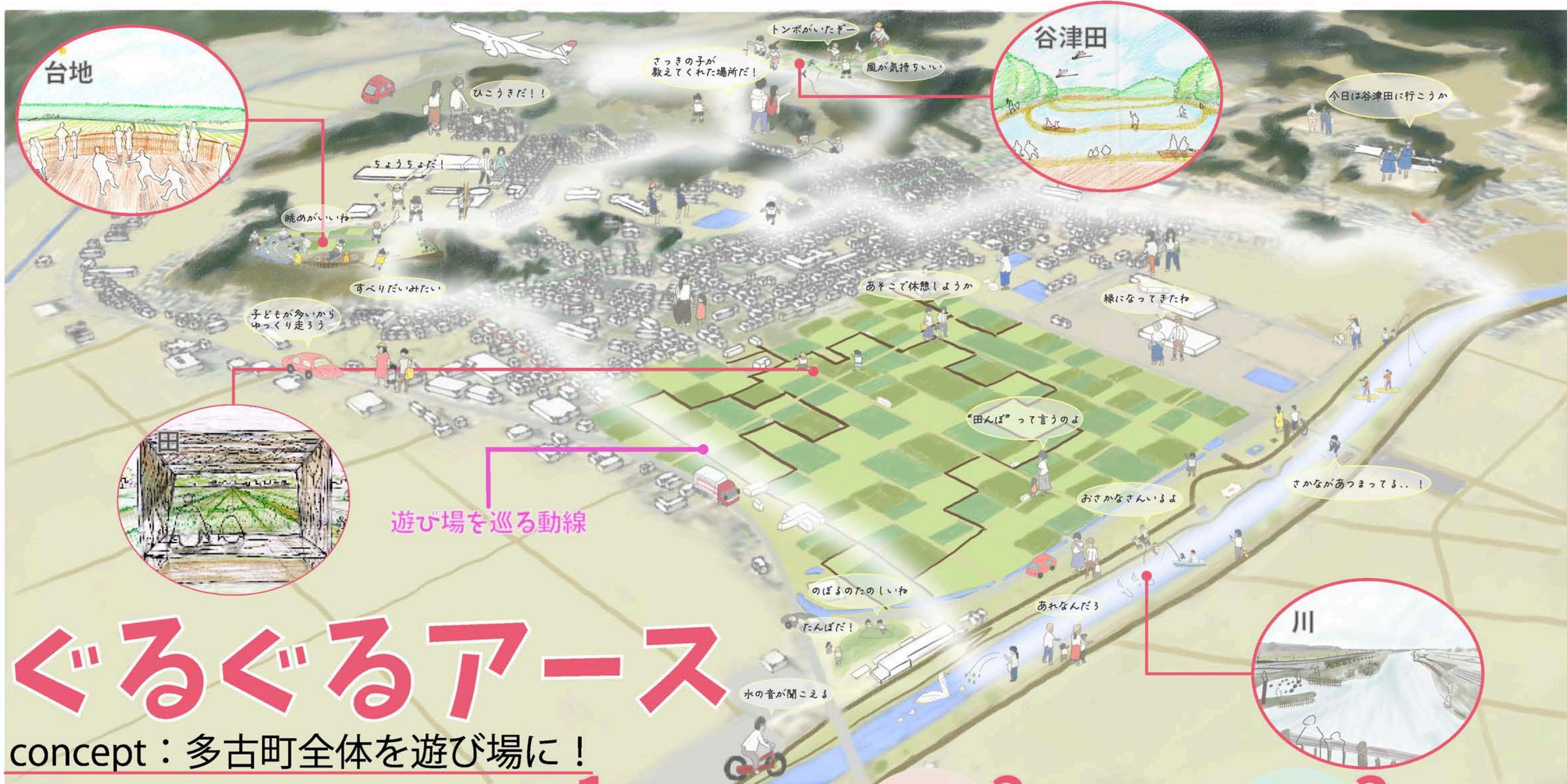
E 谷戸の境目  
森に向かって一直線に進んでいく感覚が面白い。どんな風景が待っているのだろうというワクワク感が楽しめる。



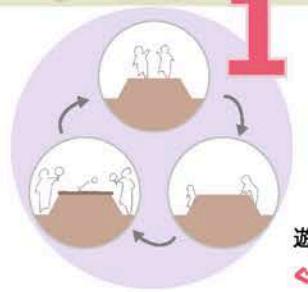
F 住居の間を流れる水路  
低地の住宅を歩いているとたくさんの小さな水路が！かつてここにも田園が広がっていたのかなど想像をめぐらす。

# A

#遊び場  
#環境現象

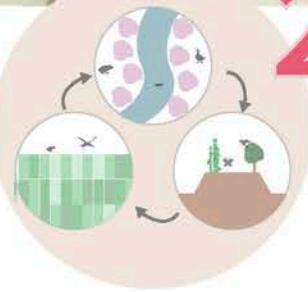


3つのぐるぐるによって、  
子どもと多古町の成長につながる



1  
人

遊びが場で規定されずに  
ぐるぐるする



2

空間

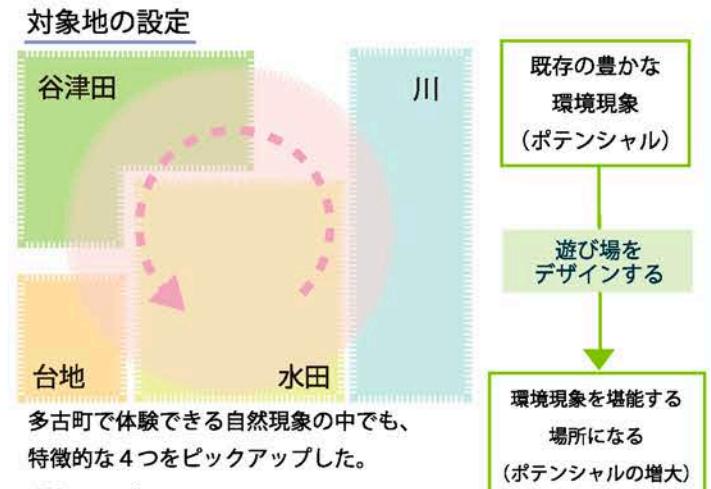
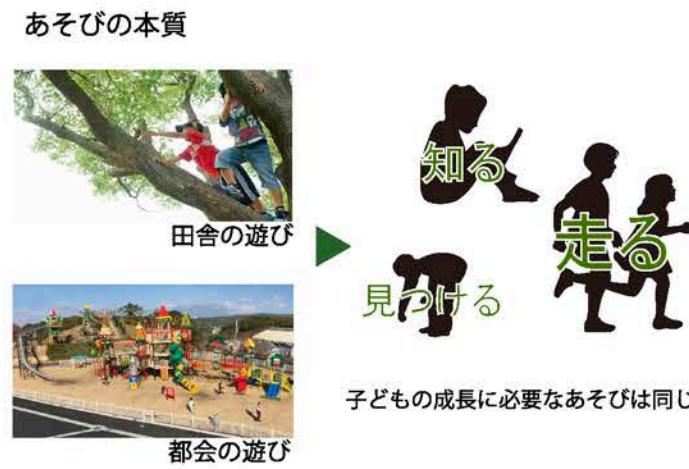
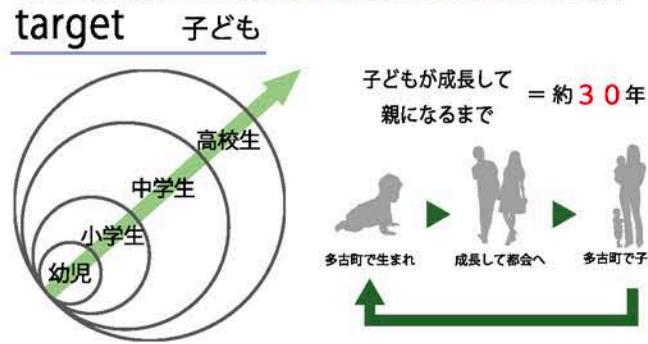
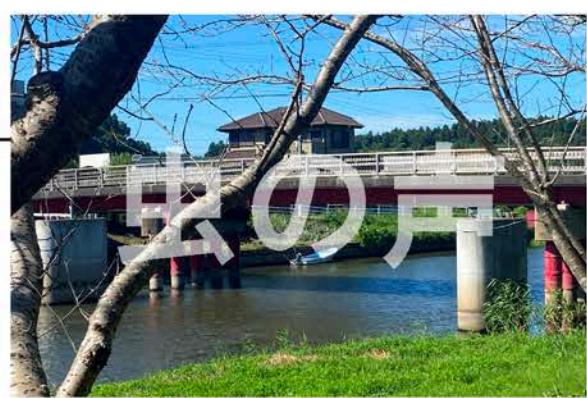
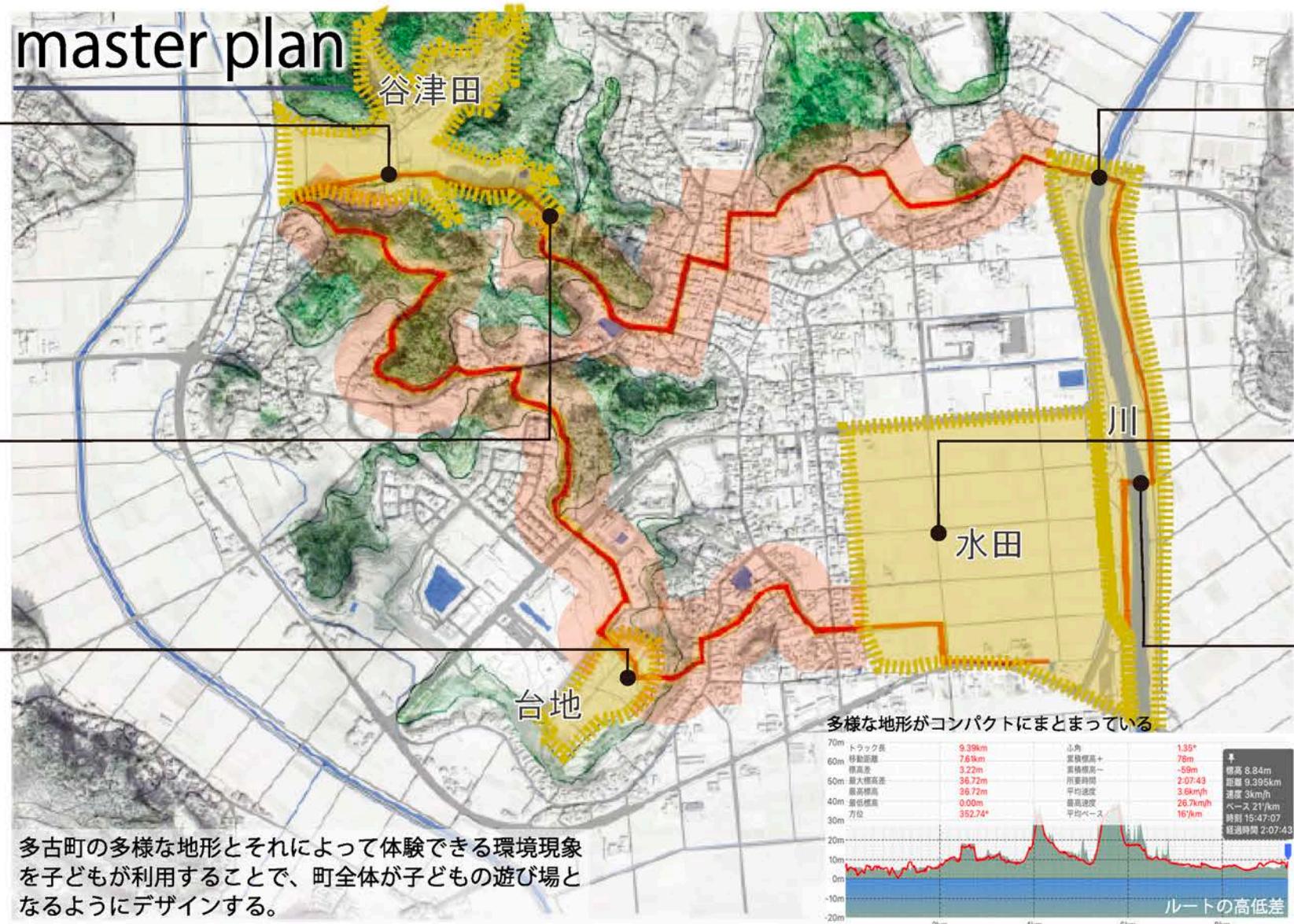
多様な環境現象を感じる  
多古町の遊び空間をぐるぐる回る



3

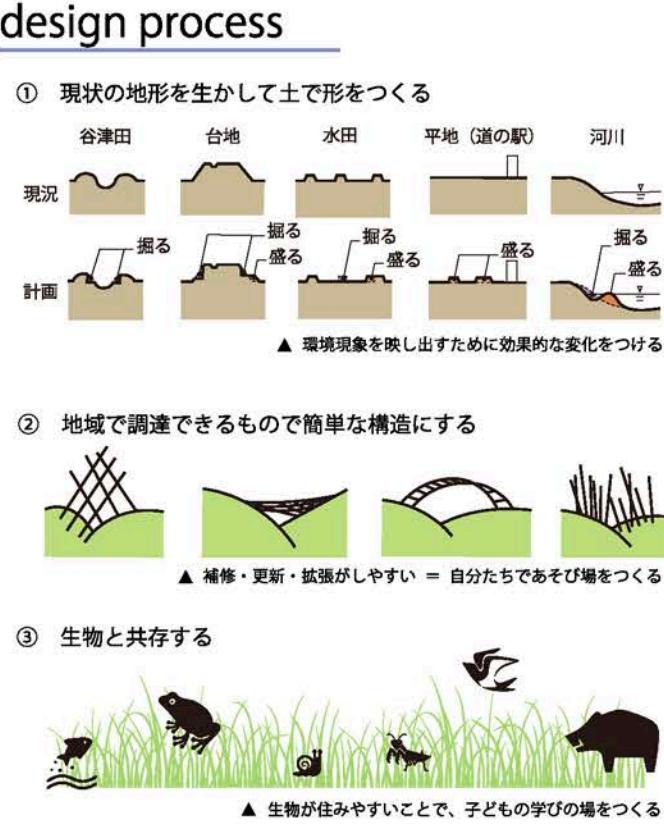
時間

遊びを通じて人と人が繋がり、  
多古町が何世代にも亘って  
ぐるぐる受け継がれる



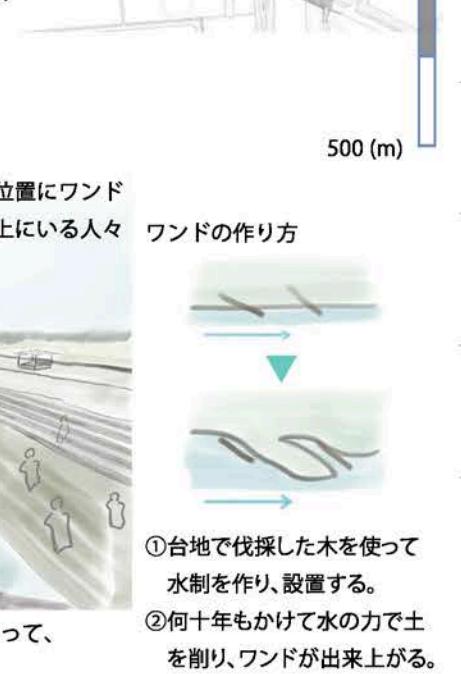
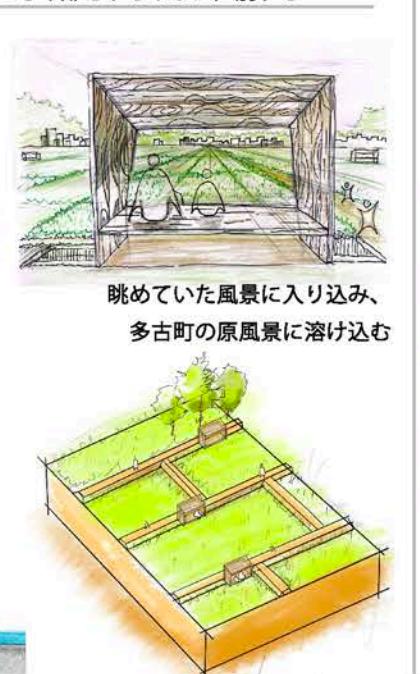
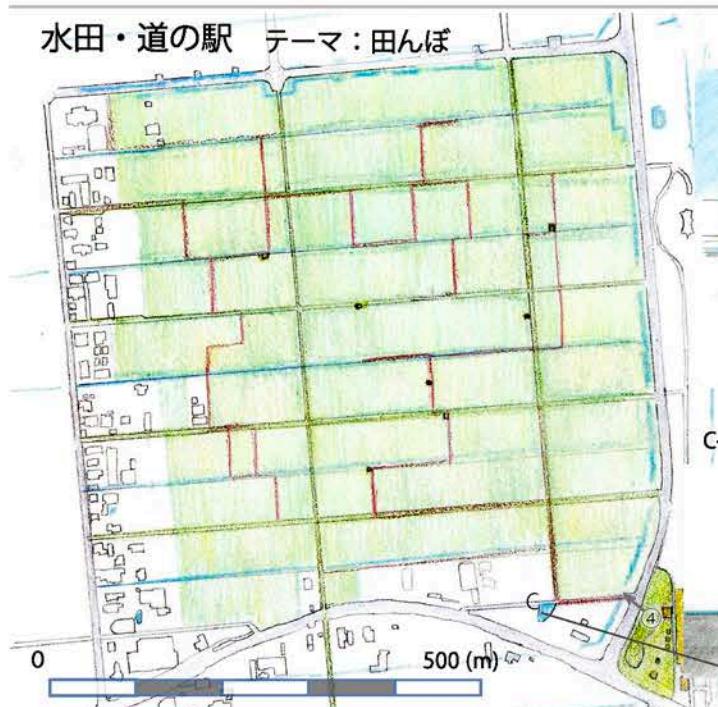
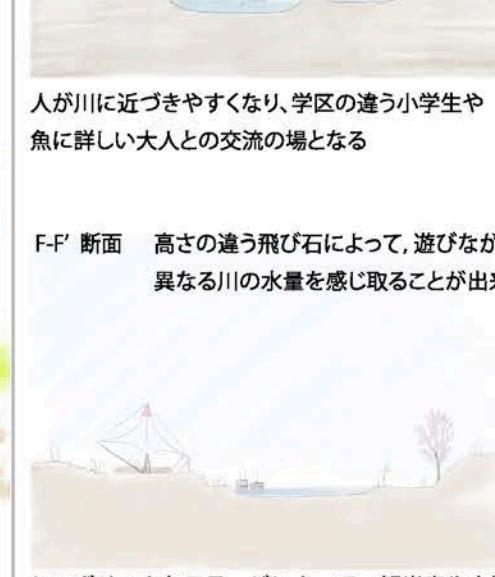
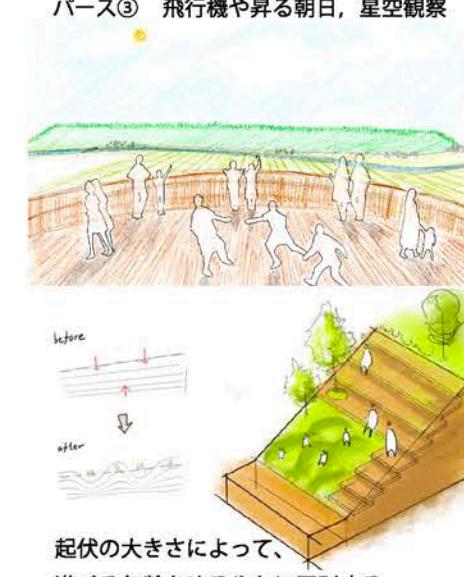
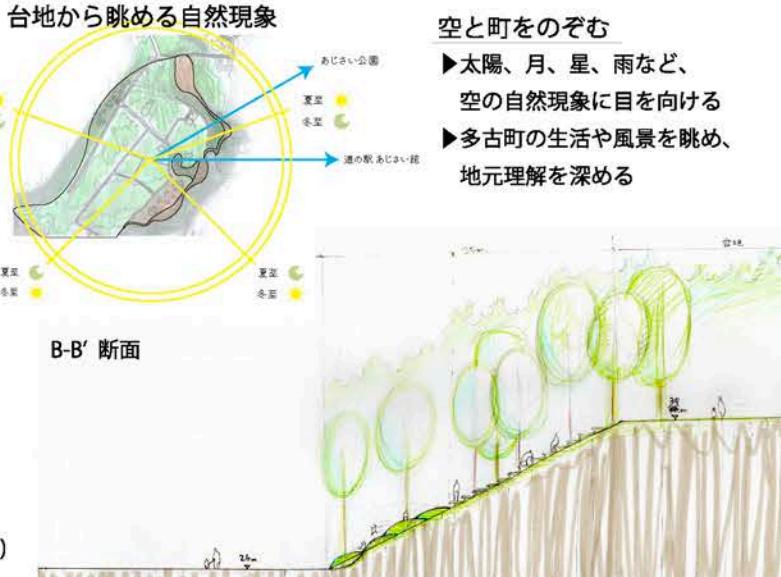
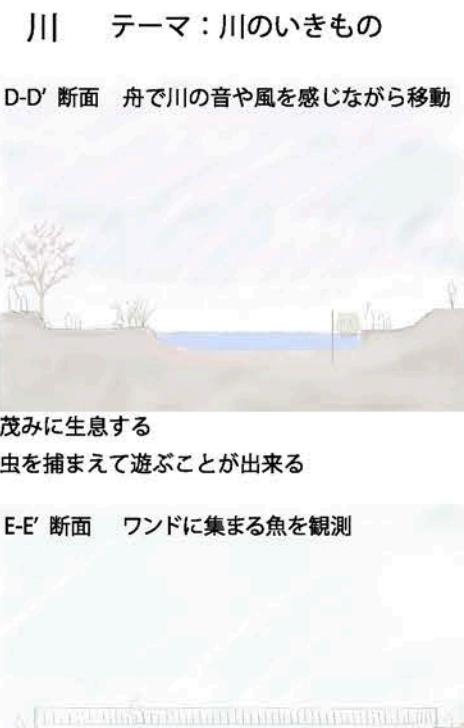
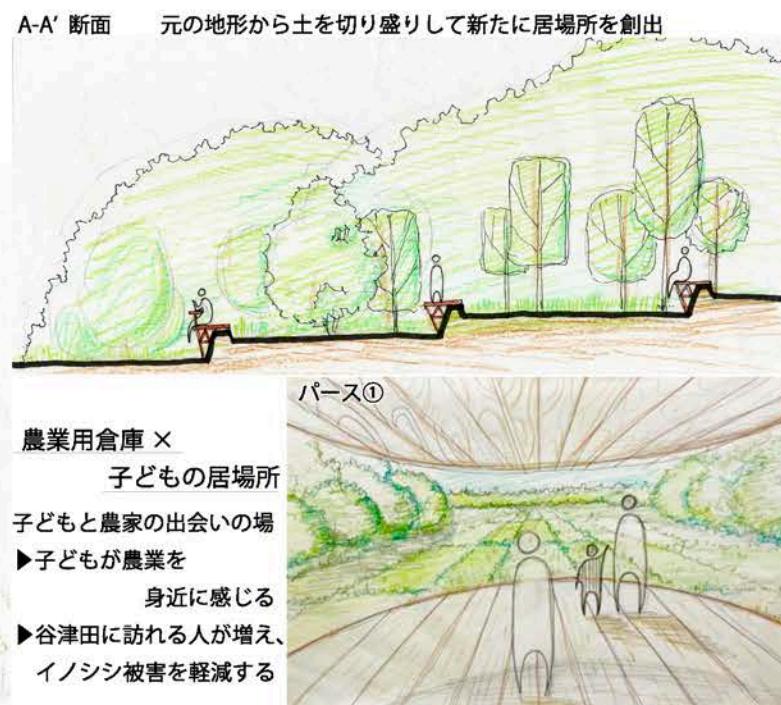
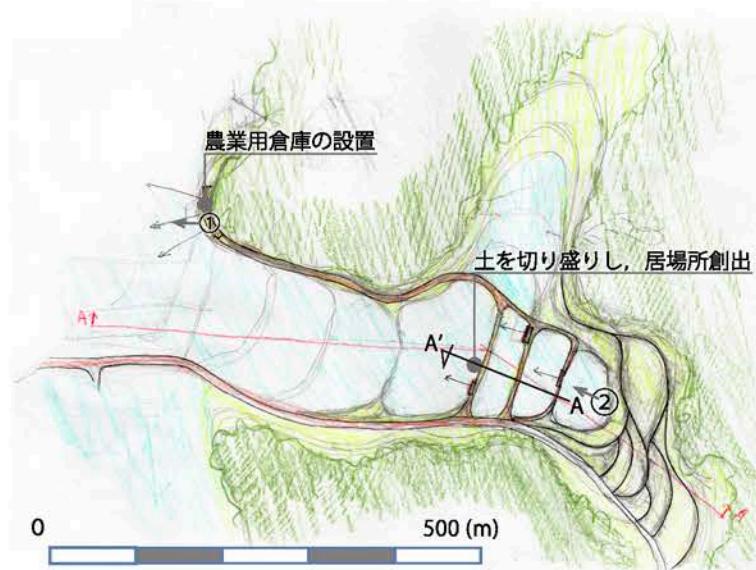
**まちの見立て**

多古町の土地利用は昔の家に見立てた。例えば玄関は成田空港から道路で繋がっていて、老若男女が滞留していることから道の駅とした。



## site design

谷津田 テーマ：山のいきもの



# B

#キワって何  
#里山再生



福井 昂平  
法政大学大学院  
デザイン工学研究科 M1



小林 拓斗  
東京大学大学院  
工学系研究科 M1



孙 培昕  
武藏野美術大学造形研究科  
建築学科 M1



小俣 慎太郎  
九州大学  
工学部 B3



米川 光咲  
東京農業大学  
地球環境科学部 B3

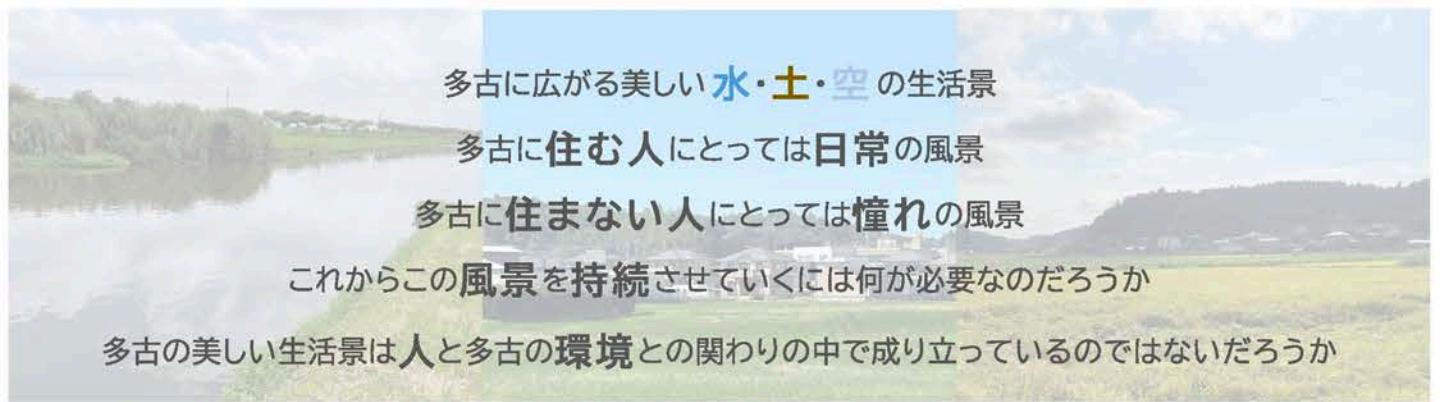


富士榮 宏将  
フリーランス  
株式会社 三菱地所設計



渡部 美香  
株式会社 三菱地所設計

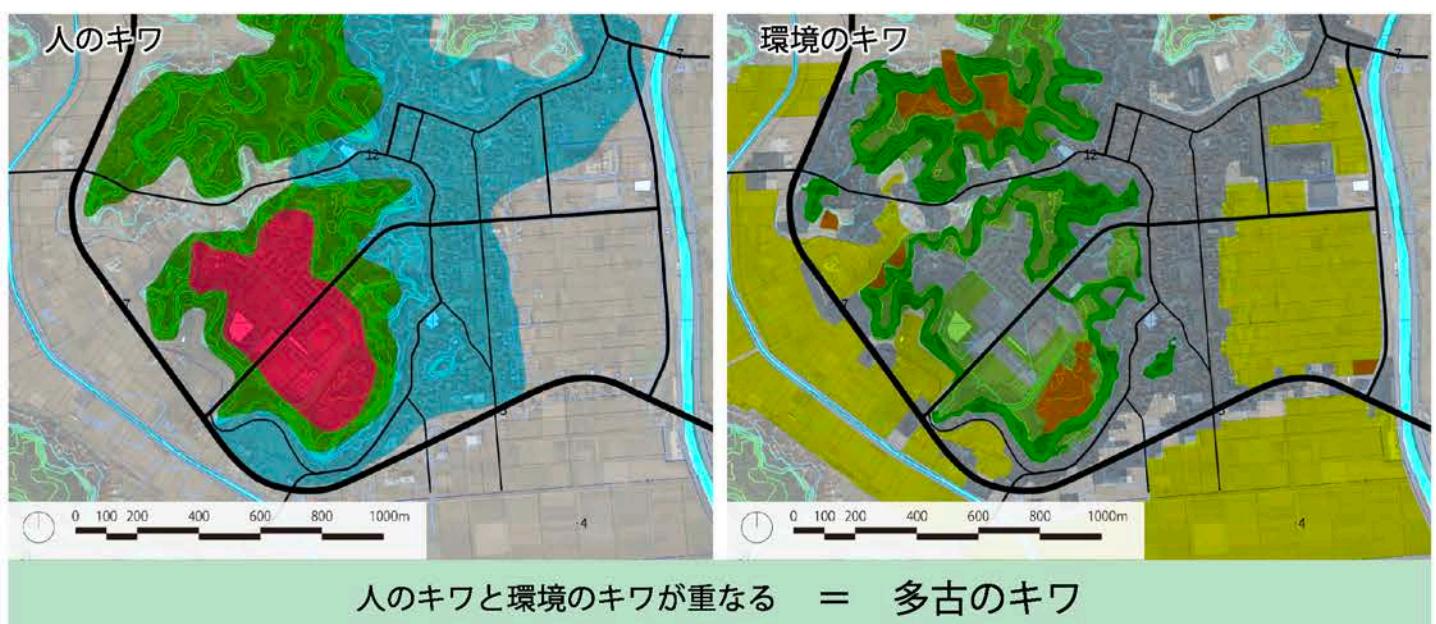




## Community 多古の人



## Environment 多古の環境

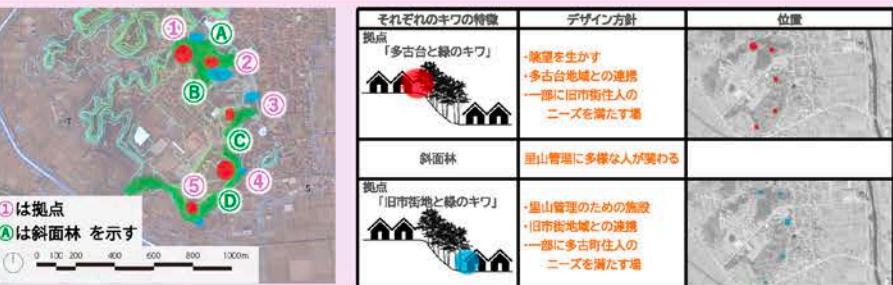


## 多古のキワをキワめ続ける

多古のキワをデザインすることで 新たな**多古台**と古くから続く**旧市街**の良さを活かしながらギャップを解消し **多古台**と**旧市街**の**コミュニティ**が引き合い街の魅力を際立たせる活発的なまちづくりを行う

全ての多古の人が多古の環境に関わる中で多古の風景を未来へ繋ぐ **持続可能な多古の未来像**を示せる

## Design Guideline "キワ"(斜面林)をつなぐ拠点づくり



"キワ"をつなぐだけでは使われる空間にはならない。途中に拠点を設けることで、各拠点が"キワ"の玄関の役割を果たす。拠点には様々な施設が配置され、日常から特別な日まで、住民のニーズに応える。"キワ"は里山再生プログラムにより、環境を改善しながら多様な人の交流を生む。

## Program "キワ"を貫く里山再生プログラム

"キワ"の里山再生活動を通して、コミュニティの結びつきを強め、日常の居場所にする。

### 目的



放棄斜面林の再生

土砂災害の軽減(防災)

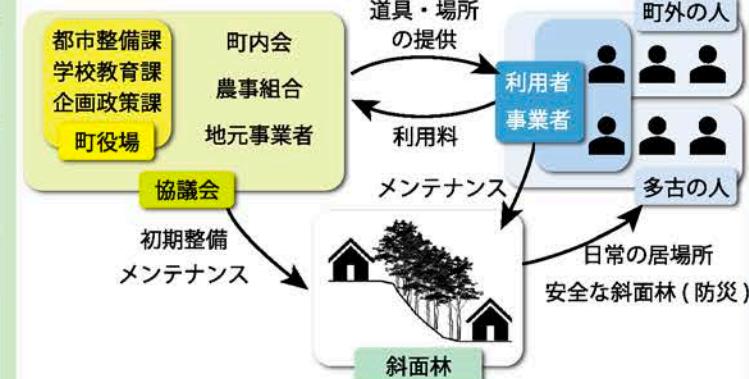
### ビジョン

普段から使える 多古台と旧市街一体の 町外・海外の人を 場所になる コミュニティを強める 呼び込む

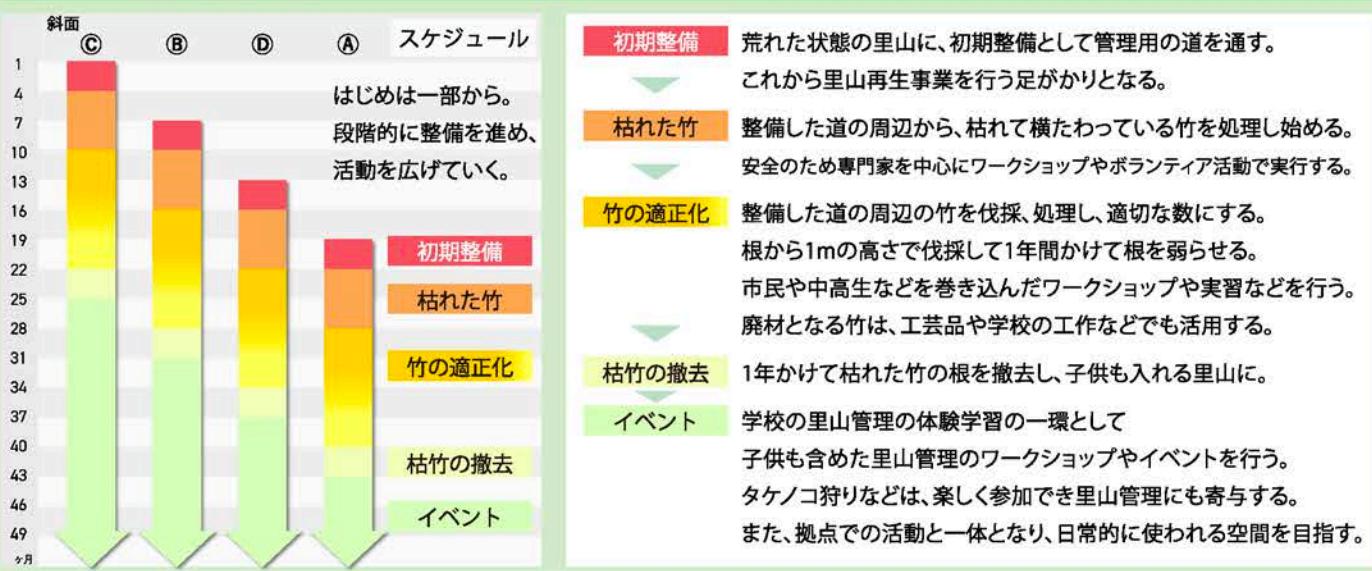
### 活動の一例

里山管理ワークショップ 自然学習 グリーンジム 農業体験 竹や廃材を用いた工芸品 タケノコ狩り マルシェ 宿泊施設

### 仕組み



## Schedule 里山再生の流れ



# Design コミュニティの浸潤に寄与する“キワ”的デザイン

## Master Plan



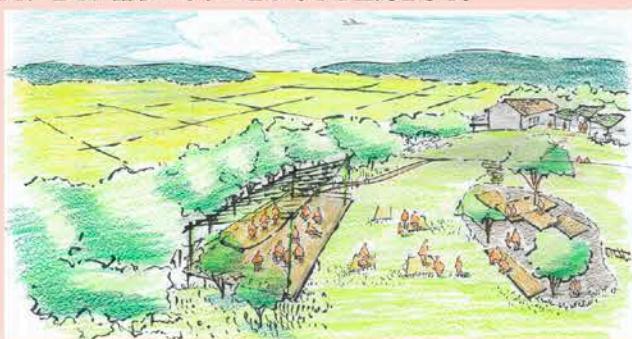
### ④ 両コミュニティのニーズに応える施設を集約し世代を超えた交流を生む

#### ■設備配置：旧市街・多古台の両方の住人のニーズに応える施設

- ・ステージ
- ・ウッドチップ広場
- ・展望カフェ
- ・低地側の集会所前の広場リニューアル
- ・ゆるやかなスロープ

#### ■期待されるアクティビティ

両コミュニティのニーズに応える施設配置・集約により、交流機会を創出。集会所とその前にある焚火広場は、コミュニティの垣根を超え、ともに語らいあうことができる空間となる。



### ⑤ 非日常空間の提供により来訪者と居住者の交流を生む

#### ■設備配置：隠れ家カフェ

#### ■期待されるアクティビティ：林の中のカフェが町外の人を呼び込み、利用する地元の人との交流を生む

### ① 多目的公園に多古台・旧市街の人々を呼び込み、多古台に賑わいを生む

#### ■設備配置：

- ・多目的広場
- ・雨庭
- ・ピザ窯
- ・ゆるやかなスロープ

#### ■期待されるアクティビティ

多目的広場では、アウトドアシネマを通して、多古台と旧市街の住民が非日常を体験できる。多古台の公園は雨庭としてデザインする。雨水を地中にゆっくりと浸透させることで、土砂災害のリスクの低減に寄与する。また、ピザ窯は、里山管理で伐採した竹でできた竹炭を用いる。



### ② あらゆる人をつなぐハブで多古一帯に賑わいをもたらす

#### ■設備配置：里山管理を通して世代を超えた交流の創出

- ・広場
- ・共同畠
- ・レストラン
- ・テラス
- ・ペンション（宿泊施設）

#### ■期待されるアクティビティ

多古台にも旧市街にも近接する、アクセスが非常に良いこの場所において住民・来訪者が地域に関わりを持てる地域交流拠点を計画。広場や共同畠などのオープンスペースを広く確保し、小学生が地域の人に農業を教えてもらう教育プログラムや、収穫イベントの実施などを通してコミュニティの相互浸潤を目指す。また、来訪客に需要の高い地産野菜や多古米を使った料理を提供するレストランや宿泊施設を設置し、来街者が滞在・宿泊できる場所となる。



### ③ 近隣小学校の防災教育を介して地域交流を促進する

#### ■設備配置：里山管理を通して世代を超えた交流の創出

- ・竹工房
- ・里山工房
- ・ギャラリー売店
- ・里山管理用バス

#### ■期待されるアクティビティ

多古台と旧市街の両コミュニティの子供が通う小学校にて防災教育の一環として里山の維持管理を実施。廃材となる竹を工房で有効活用し、工芸品として販売する。地域住民も巻き込むことで、維持管理経験者と子供の交流機会を創出し、世代を超えた交流が生まれる。



# C

#風景転換  
#シークエンス  
#魅力発信  
#交通



前澤 健心  
法政大学大学院  
都市環境デザイン工学専攻 M1



西山 棕太  
東京大学大学院  
社会基盤専攻 M1



洪 丹超  
多摩美術大学大学院  
環境デザイン専攻 M1



安田 有希  
日本大学  
理工学部まちづくり工学科 B4



塙澤 敬祐  
茨城大学  
農学部 B4



松木 麗子  
東京農業大学  
造園科学科 B3



岸 孝  
プレイスメディア



松野 祐太  
小野寺康都市設計事務所

概要

A team

B team

C team

D team

E team

F team

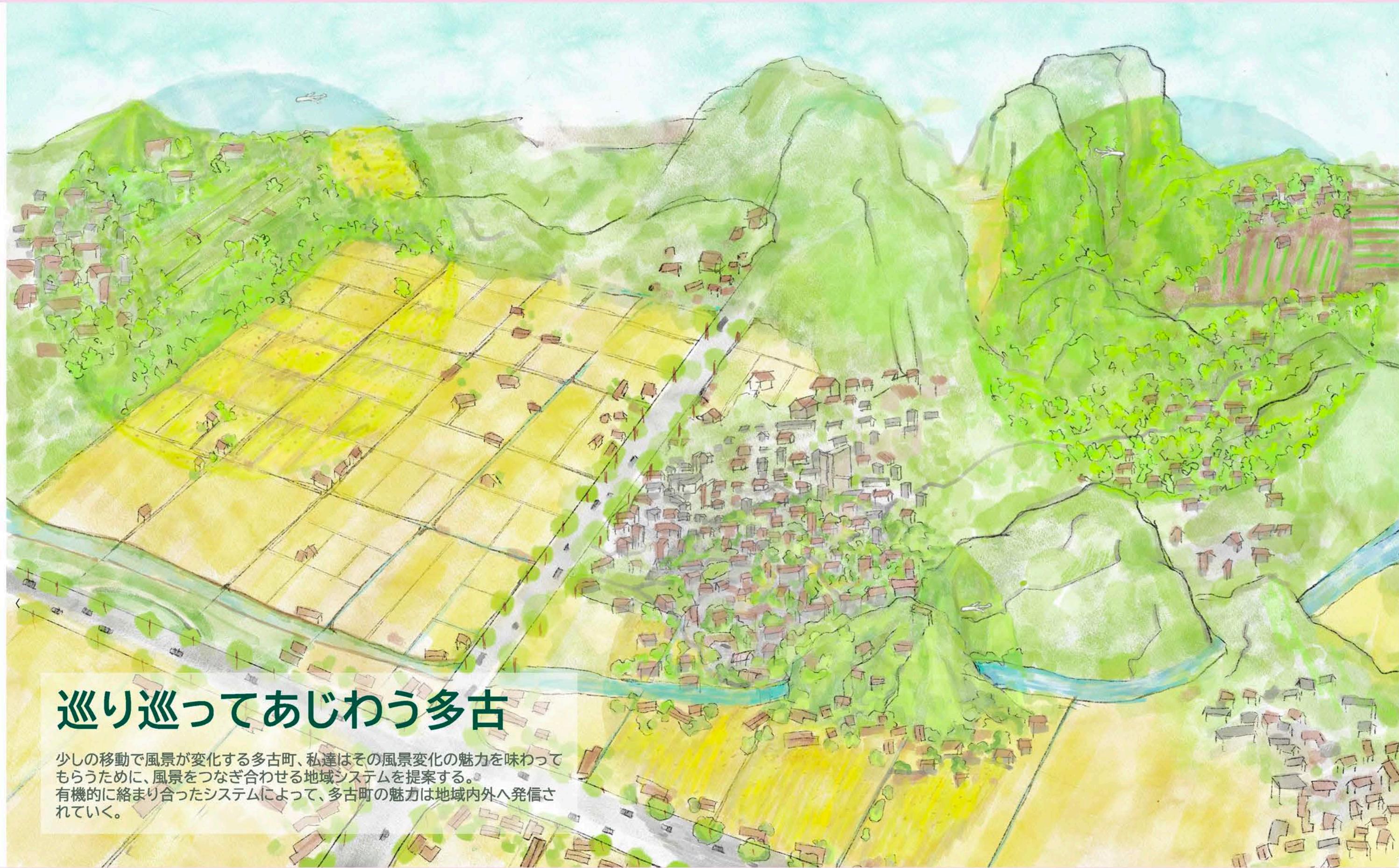
ゲスト講評

チーナー

協賛企業

多古町の魅力

編集後記



## 巡り巡ってあじわう多古

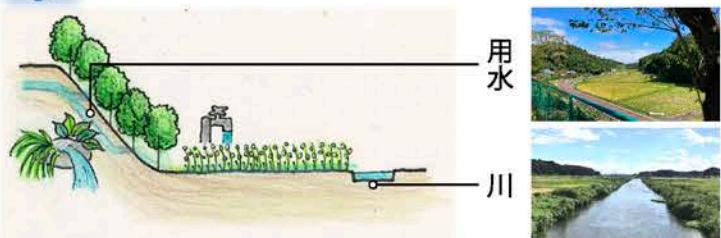
少しの移動で風景が変化する多古町、私達はその風景変化の魅力を味わってもらうために、風景をつなぎ合わせる地域システムを提案する。  
有機的に絡まり合ったシステムによって、多古町の魅力は地域内外へ発信されていく。

## ○ CONCEPT『多古町の魅力をあじわってもらう』

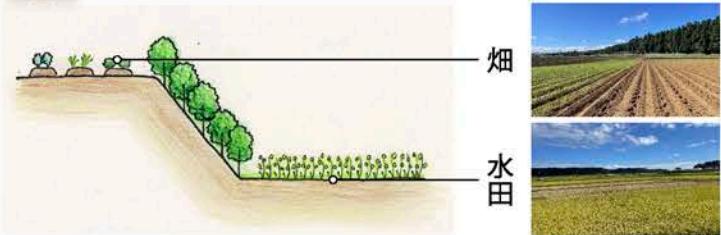
### 多古町の魅力とは?

多古町を訪れた際、たくさんの景色に出会い、多様に風景が変化していくことが多古町の魅力であると感じた。この魅力を多古町を住む・訪れる・働く人にあじわって欲しいと考えた。

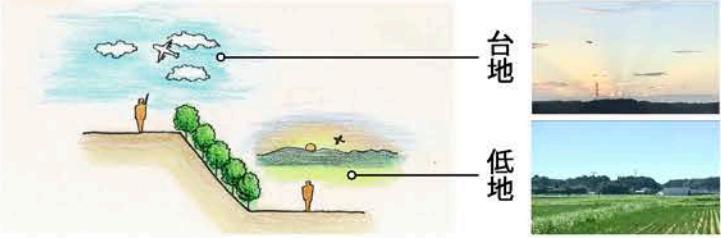
水



土



空



### 水の魅力 = 水の風景の変化

多古町の水の風景に着目すると、地形に沿って、湧水から用水、川へとの水の表情が変化する様子を捉えることができる。水の流れや用途は、多古町のありとあらゆる場所で変化し、多古では様々な姿をした水を見ることができる。

### 土の魅力 = 土地利用が生み出す風景の変化

多古町は、森林・農地・市街地と土地利用の多様性が高く、それゆえに生み出される多古町の土の風景は、土地利用の形態ごとに大きく異なる。多古町では低地には水田、台地には畑、中間には森林や住宅といった景色が広がっている。

### 空の魅力 = 広大な空に映える飛行機の風景

多古町の空の風景は行く先々で変化する。低地では山の稜線がつくるスカイラインが、大空が広がる台地では飛行機が見える。騒音を感じずに、低く飛ぶ飛行機を眺望できるのは、成田空港との絶妙な距離感がある多古町ならではといえる。

## ○ PLAN『多古町の魅力をつなげる地域システムの構築』

### 地域システム

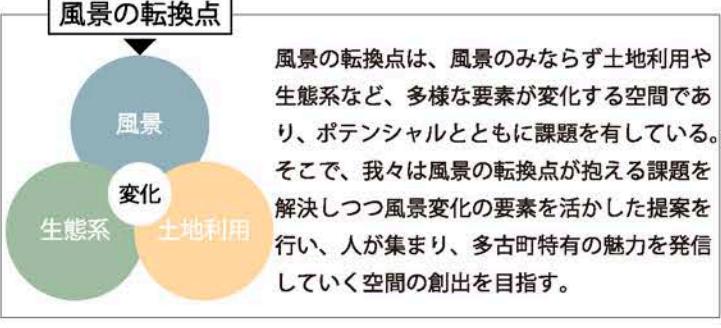
点として存在している水・土・空の魅力的な風景の転換をつなぎ合わせる「地域システム」を構築する。

### 提案の仕組み

- ① 人が集まり、魅力の発信エリアとなる「拠点エリア」
- ② 風景の転換点を結び、広域交通軸ともなる「新交通システム」
- ③ 水・土・空の変化がシークエンスとして立ち現れる「たこみち」

多古町の魅力が有機的に絡り合うことで、多古町に住む・働く・訪れる人が魅力を体感できる。さらに、この地域システムを軸として、課題解決とポテンシャルの引き上げの効果が波及していく、多古町全体の活性化に繋がる。

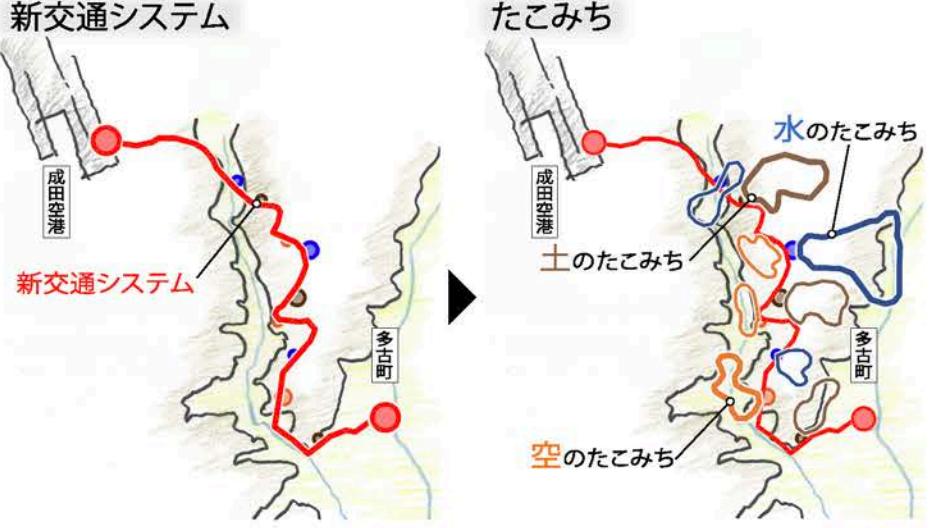
### 風景の転換点



### 拠点エリア



### 新交通システム



### たこみち



## ○ SURVEY

### 多古町特有の風景の変化

一般的な田園の構成



### 多古町の構成



魅力=風景の変化+多古町の地形=風景の転換

多古町は地形の変化に富んでいるため、わずかな移動で風景が変化する。これを風景の転換と名づけた。



### 畑に囲まれた道



### 奥の風景を遮る植栽の存在



### 水田に囲まれた道

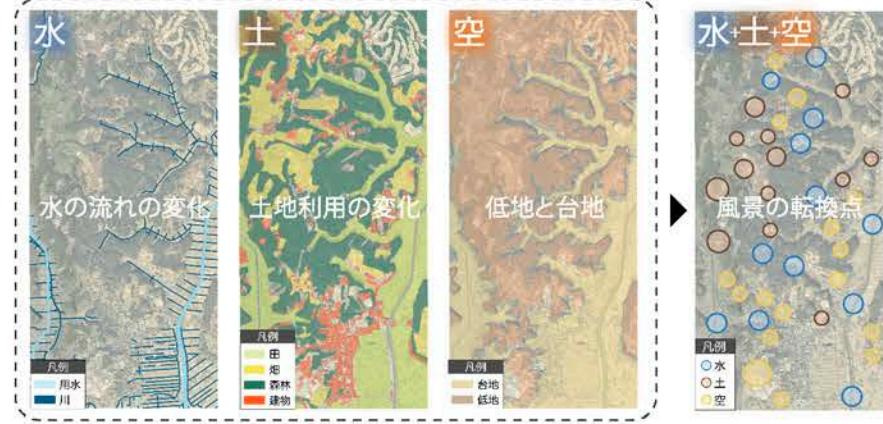
多古町の地形は一般的な田園風景と比較してスケールが小さい。多古町では標高の変化が小さな範囲に収まっており、風景の転換がわずかな移動で頻繁に起きる。

また、風景の転換を構造的に捉えると、手前と奥の対照的な風景を結ぶ道の上を人が移動していることが分かる。道沿いに奥の風景を遮る植栽や構造物があることで、手前から奥に移動するとドラマチックな風景の転換が感じられる。

### レイヤー分析

次に、我々は風景の転換を感じられる場所を抽出した。水の流れを表したレイヤー、土地利用を表したレイヤー、低地と台地を表したレイヤーを作成し、それぞれのレイヤーで要素が転換する場所をプロットすることで、水・土・空それぞれの風景の転換点を抽出した。

その結果、転換点が重なり風景の転換をいっぺんに味わうことができるような場所はなく、水・土・空の転換点は南北方向に独立して存在していた。



## ○ DESIGN『新交通システム』

### 現在の多古町の交通網



レイヤー分析の結果、水・土・空の風景の転換が起こる場所は南北に連なっていた。しかし、国道 296 号が多古町を東西に横断していることや、多古町を南北に結ぶ循環バスの一部ルートが廃止されることで、風景の転換が起こる南北方向の移動は弱くなっている。

ここで、多古町未来構想において新たな南北の交通軸として提案されている「新交通システム」が、水・土・空の風景の転換点と重なることに目をつけた。そこで、我々はこの新交通システムで風景の転換点を結びながら、広域交通として機能するシステムとして計画した。

### 新交通システム

成田空港と多古町を最速で結び、人の輸送に重きを置いた現行のシャトルバスと異なり、我々が提案する新交通システムは、広域交通として機能しつつ、多古町の水・土・空の風景の変化を結びながら、小さな集落も繋ぐ地域に根ざした交通である。新ルートでは、乗車しているだけで車窓から魅力的な多古の風景の転換を体感できるほか、車の速さを活かすことでダイナミックな風景の転換を徒歩とは異なる速度スケールであじわうことができる。

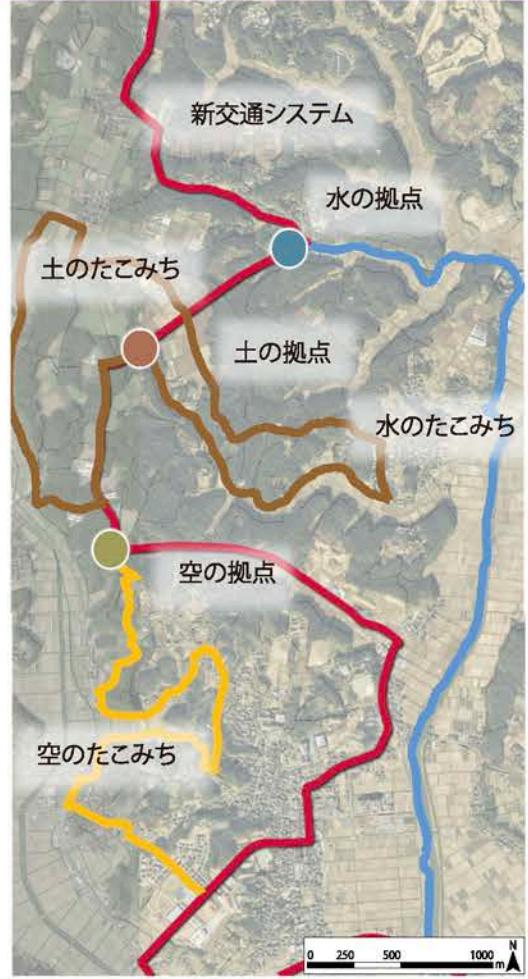
### 新ルート(広域)



### 新ルート(詳細)



## ○ DESIGN『全体平面』



## ○ DESIGN『たこみち』

街の中で様々に展開する水土空それぞれの風景の転換を感じることができるヒューマンスケールの移動動線。

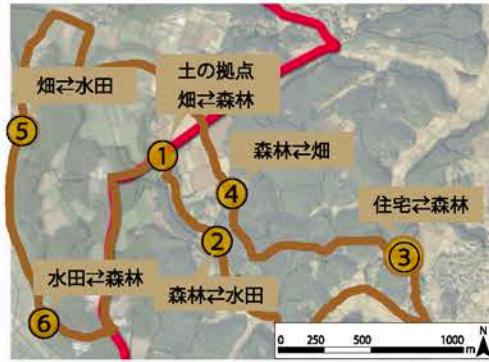
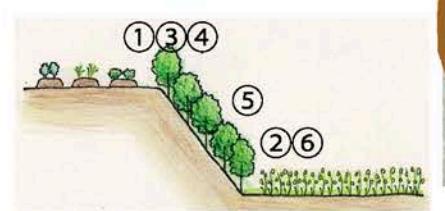
### 水のたこみち



### 土のたこみち

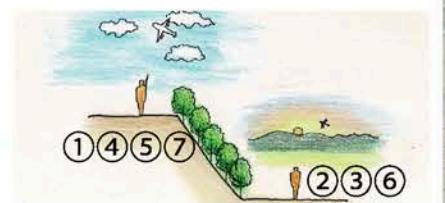
地形と土地利用の変化により、土の風景の変化を味わうことができる。

街を見晴らす風景から視界の限定される谷戸の緑を経て畠が一面に広がる風景がドラマチックに展開していく。



### 空のたこみち

台地と低地を上り下りするルートを設定。自然の地形に沿った道では、高低差の変化を活かして切り替わる空の風景や飛行機の姿が印象的に感じられる。

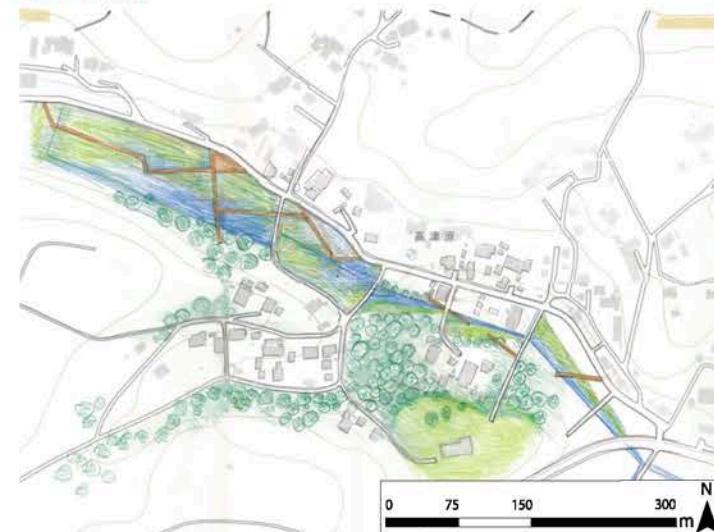


## ○ DESIGN『拠点エリア』

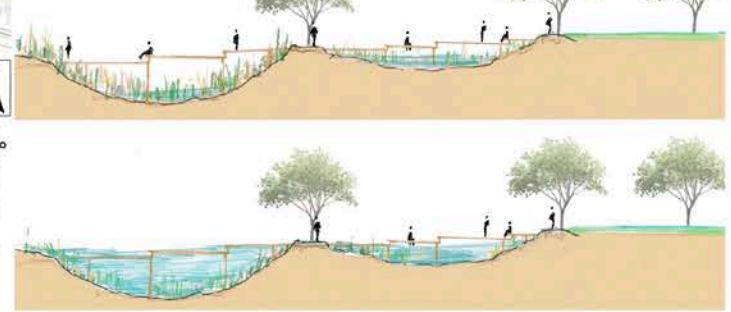
多古町の水土空の魅力の発信拠点。風景の転換点ならばではの課題の解決やポテンシャルを引き出すことで、風景の魅力をより高めるデザインとした。

人が集まり、多古の魅力の発信をしていく場所となる。

### 水の拠点

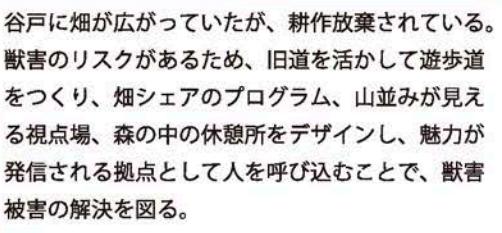


耕作放棄で雨水調整機能が弱まるため  
通常時は湿地、雨が降った時はため池として洪水調整池となるデザイン



美しい谷津田が広がっていた場所であるが、耕作放棄地となっている。  
動植物などに最適な環境である谷津田が無くなることで、生態系が崩れてしまう可能性がある。水辺と樹林が連続した谷津田の地形を取り込んだデザインをし、ウッドデッキを通することで、人が散策を楽しむ場、生態学習の場として活かしながら、生態環境を保全していく。

### 土の拠点



### 空の拠点



# D

# 究極のお酒  
# 谷津田再生



助川 皓洸  
東京大学大学院  
社会基盤学専攻 M1



鄭 雅莉  
多摩美術大学大学院  
環境デザイン学科 M1



大旗 望  
法政大学  
デザイン工学部 B4



鴨 潤矢  
法政大学  
デザイン工学部 B4



糟谷 奏海  
東京農業大学  
造園科学科 B3



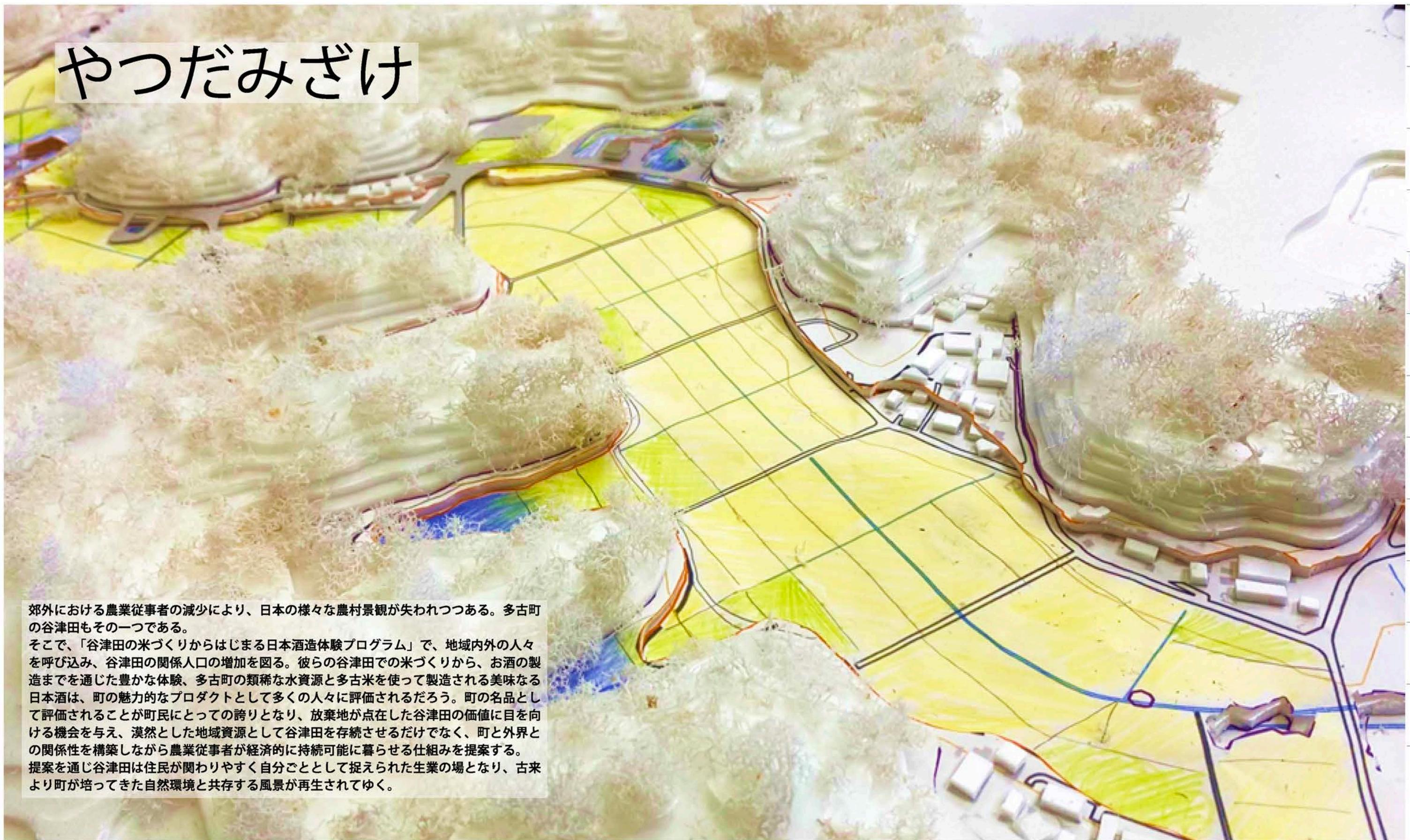
難波 真ノ介  
工学院大学  
建築学部 B3



小林 祐太  
plough



松本 大知  
株式会社三菱地所設計



郊外における農業従事者の減少により、日本の様々な農村景観が失われつつある。多古町の谷津田もその一つである。

そこで、「谷津田の米づくりからはじまる日本酒造体験プログラム」で、地域内外の人々を呼び込み、谷津田の関係人口の増加を図る。彼らの谷津田での米づくりから、お酒の製造までを通じた豊かな体験、多古町の類稀な水資源と多古米を使って製造される美味しい日本酒は、町の魅力的なプロダクトとして多くの人々に評価されるだろう。町の名品として評価されることが町民にとっての誇りとなり、放棄地が点在した谷津田の価値に目を向ける機会を与え、漠然とした地域資源として谷津田を存続させるだけでなく、町と外界との関係性を構築しながら農業従事者が経済的に持続可能に暮らせる仕組みを提案する。

提案を通じ谷津田は住民が関わりやすく自分ごととして捉えられた生業の場となり、古来より町が培ってきた自然環境と共に存する風景が再生されてゆく。

概要

A team

B team

C team

D team

E team

F team

ゲスト講評

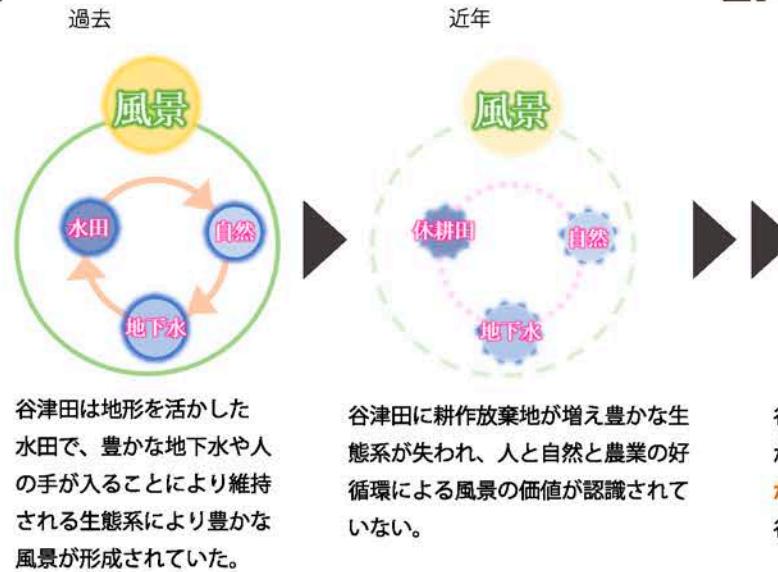
チーフナー

協賛企業

多古町の魅力

編集後記

## 背景：埋もれる谷津田の風景



## コンセプト：酒造りを介した風景の発掘



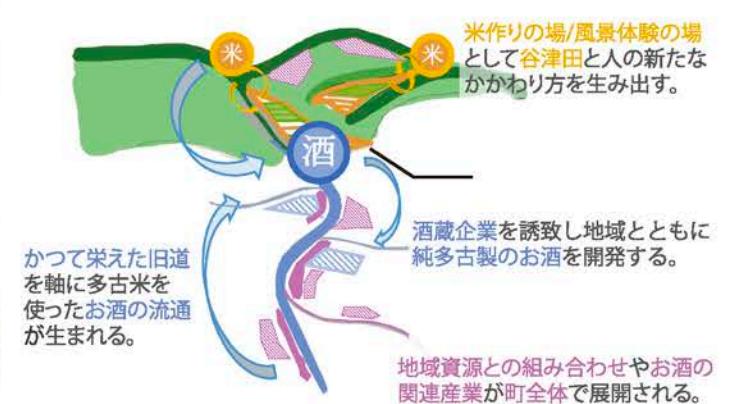
谷津田の米を利用した日本酒造りプログラムの導入により、地域外からの来訪者と谷津田を関係づける。豊かな体験と製造されるお酒が評価されることにより、住民が谷津田の風景の価値を再認識し、谷津田が住民にとっても利用される場へと変わっていく。

## 提案概要：酒造りを介した風景の再発掘

休耕田とため池を活かした谷津田のデザイン

+

谷津田での米作りから始まる酒造りプログラム



多古町の中で地域内外の人の手により  
谷津田の風景が再生される。

## 酒造りに適した多古の水・土

### ○谷津田の分布

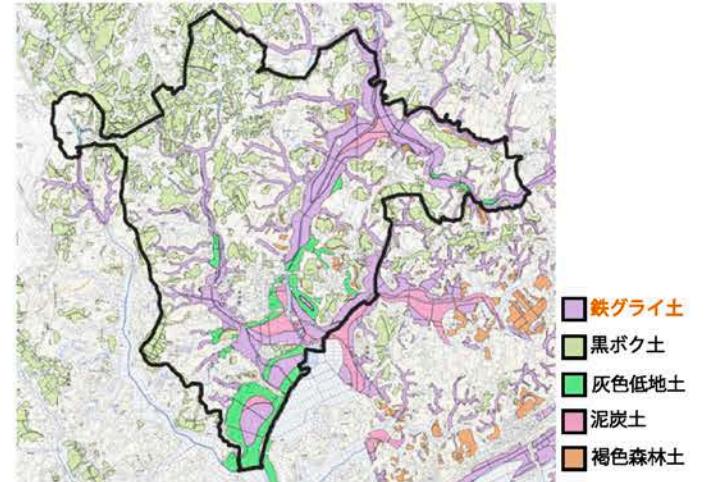
多古町内の谷津田を緑色で示している。中心市街地から離れた箇所ほど耕作放棄地が多い。谷津田では農地の周りに落葉樹林が多く、落ち葉の分解によりフルボ酸という米のミネラルの吸収に役立つ成分が生み出される。

### ○酒造りにとって良質な地下水

地域の井戸水：鉄分が入らず有効ミネラルの多い硬水であり、この条件は日本酒作りに非常に適している。



### ○米づくりにとって良質な土壤



多古町の谷津田には鉄グライ土というミネラル分を多く含む土壤が広がっており、米の育成に適している。したがって、低地に比べておいしいお米を育成しやすいというポテンシャルを秘めている。

多古町の水と  
豊かな土に育まれるお米によって、  
最高の日本酒を造ることができる。

## 谷津田デザインによる美味しい米づくり

### ○フルボ酸の貯留・供給装置となるため池

谷津田内に挿入するため池は落ち葉の分解により、作物のミネラル吸収を促進する。

フルボ酸を多く生み出し、フルボ酸を多く含んだ水を水田へと供給する。



## 谷津田から生み出される周囲への展開



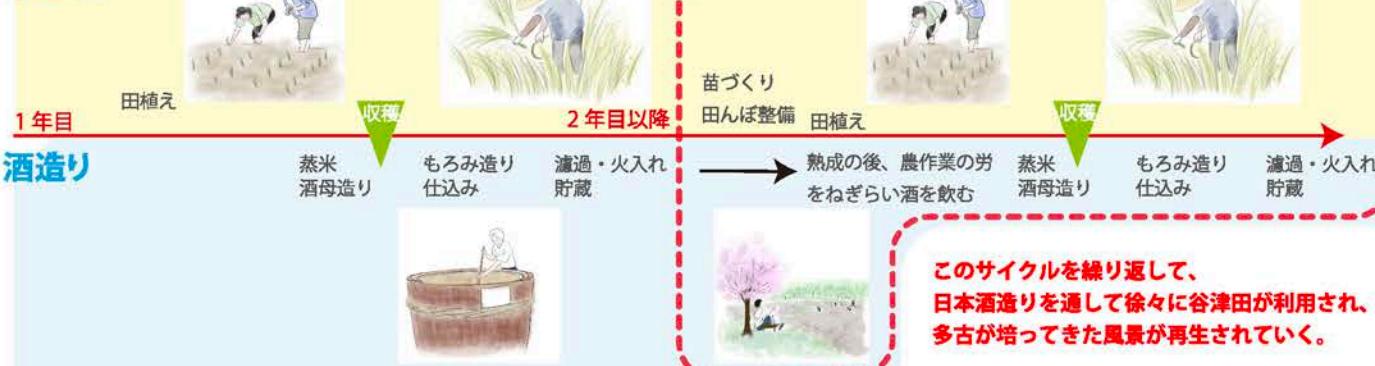
## プログラムの流れ：日本酒造りと谷津田の米づくりのかかわり方

### 米づくり

1年目

### 酒造り

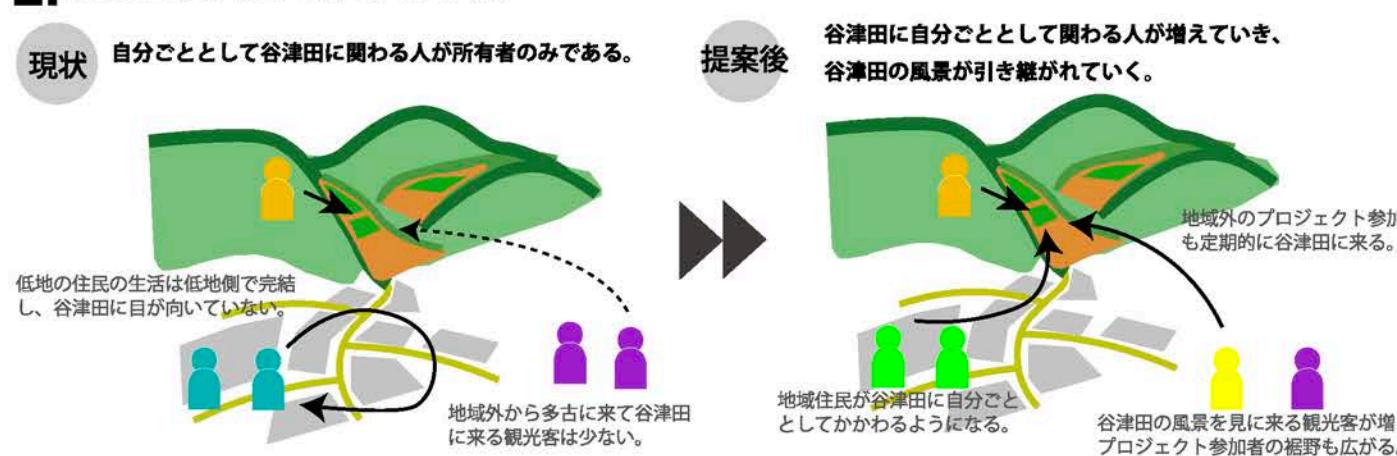
2年目以降



## 谷津田と人とのかかわり方

### 現状

自分ごととして谷津田に関わる人が所有者のみである。



### 提案後

## 谷津田のデザイン

位置や大きさ、現在の利用のされ方から3つの異なる属性の谷津田選び、ケーススタディとしてデザインを行った。



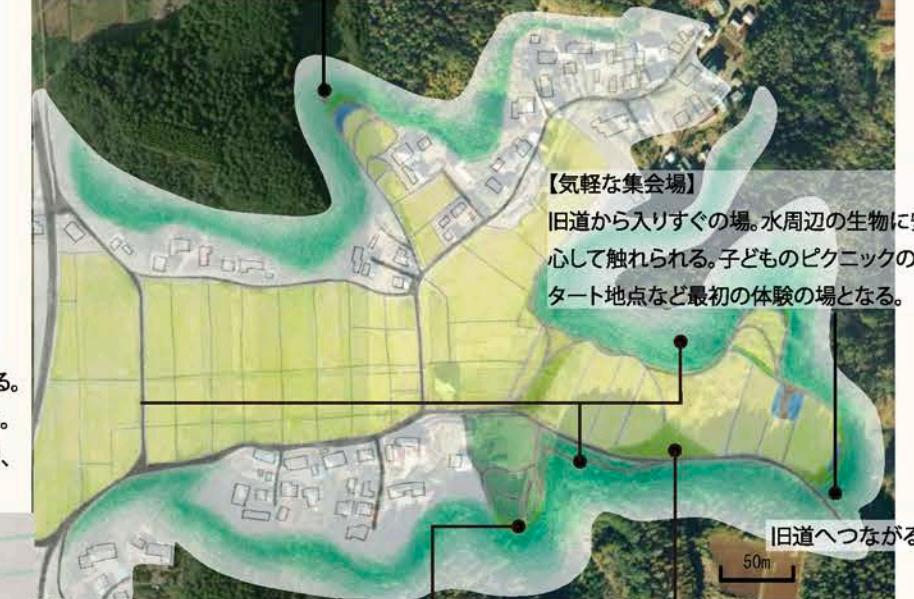
**【森林を体感する散策路】**  
広葉樹の管理や子どもたちのピクニックの経路となる。散策路の目的地は谷津田を上から見る視点場となる。奥まったところでは森の中を探検する場となっており、子どもたちの遊び場となる。



**【ディープで極める谷津田】**  
地域住民や二拠点居住者が米づくりに関わる。食事ができる東屋や広い木の下の空間が休む場となる。農作業をしながら交流を深める場になる。



**【気軽な集会場】**  
旧道から入りすぐの場。水周辺の生物に安心して触れられる。子どものピクニックのスタート地点など最初の体験の場となる。



**【休憩かつ山菜採る場】**  
谷津田から少し登る畑の付近にあり、上からの視点を提供する休憩場所で、裏の落葉樹林内での山菜採りなどで親交を深める。



## めぐる谷津田

東西に細長く、**様々な箇所からアクセスが可能**となっており、**通行性が高い**谷津田となっている。現況で多くの休耕田を活用して、新たにため池を挿入しながら、米づくりプロジェクトの場の提供に加え、**その地形を生かして歩く・滞在・宿泊することで谷津田の魅力を感じ取れる場**としてデザインする。

### 【谷津田内に泊まる宿】

地域外からの来訪者向けに設置する。宿に宿泊して長時間谷津田内に滞在することで、昼間では感じ取れない夜の生物の活動、夜の雰囲気を感じることができ、更に谷津田の魅力を知ることが出来るきっかけを提供する。



**【散歩ロード】**  
谷津田の中に散歩道である歩行者専用の歩道を作り、その途中にウッドデッキを設置し、様々な視点から谷津田を眺められる場所、酒を交わす場所を提供する。

凡例	■ 水田	■ 畑	■ ウッドデッキ・建物
	■ 草原	■ 森林	■ ため池

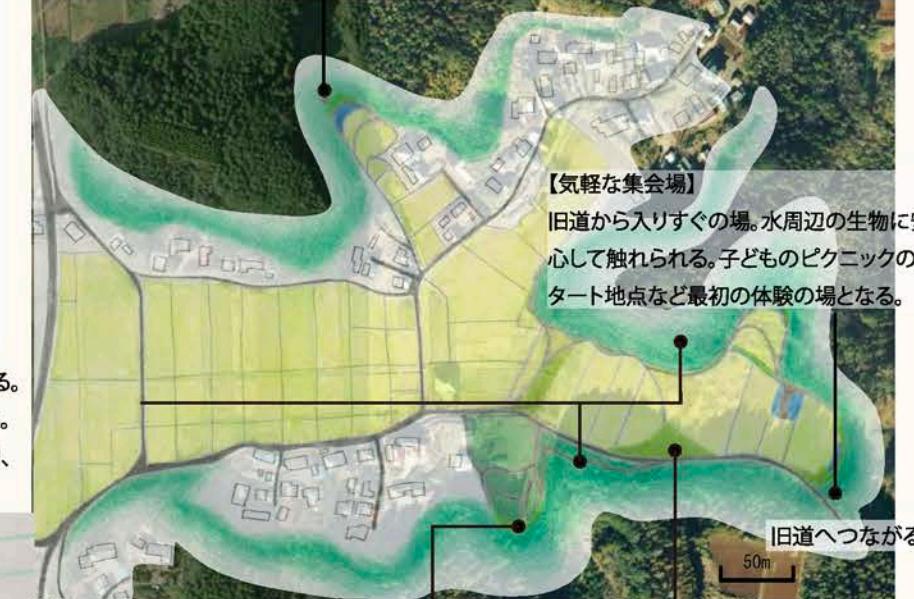
## はじまりの谷津田

成田市からの街道と町の旧道とを結ぶ位置にあり、**延長が短く周りやすい**谷津田である。中心市街地からの近さを生かして、現在点在している休耕地や流れている小さな水路を活用し、市街地の住民や来訪者が**まず谷津田に関わるきっかけとなる場**としてデザインする。

**【ディープで極める谷津田】**  
地域住民や二拠点居住者が米づくりに関わる。食事ができる東屋や広い木の下の空間が休む場となる。農作業をしながら交流を深める場になる。



**【気軽な集会場】**  
旧道から入りすぐの場。水周辺の生物に安心して触れられる。子どものピクニックのスタート地点など最初の体験の場となる。



**【休憩かつ山菜採る場】**  
谷津田から少し登る畑の付近にあり、上からの視点を提供する休憩場所で、裏の落葉樹林内での山菜採りなどで親交を深める。

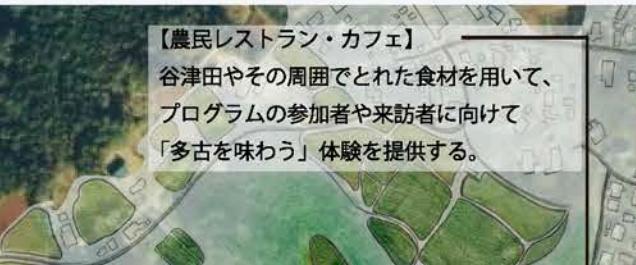


## 潤う谷津田

市街地から離れた位置にあり、比較的小規模な谷津田である。周辺に落葉広葉樹が多く、ため池を活用した食の体験や生物とのふれあいを増やした谷津田としてデザインする。現況では市街地から離れていることから休耕田が多いが、ため池や視点場として一部を使いながら、人が自然と関わる場としていく。人の手が入るようになることで、耕作の風景を取り戻していく。

### 【農民レストラン・カフェ】

谷津田やその周囲でどれた食材を用いて、プログラムの参加者や来訪者に向けて「多古を味わう」体験を提供する。

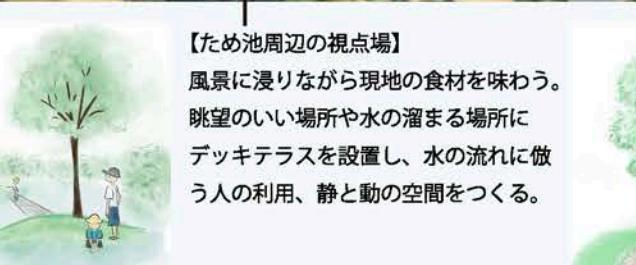


**【ため池ビオトープ】**  
エコトーンの中で見る風景・生き物と触れ合う体験は自然学習にもなる。その体験は彼らの原風景となり、来訪者や地域住民の地元への継続的な関わりを促す。



100m

**【ため池周辺の視点場】**  
風景に浸りながら現地の食材を味わう。眺望のいい場所や水の溜まる場所にデッキテラスを設置し、水の流れに使う人の利用、静と動の空間をつくる。

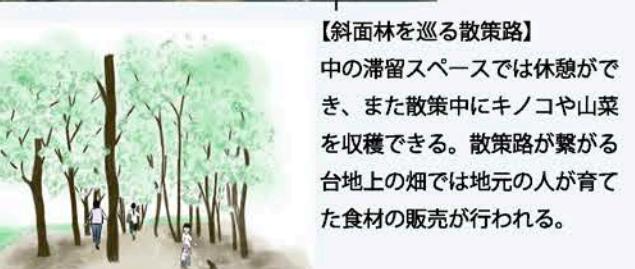


100m

**【斜面林を巡る散策路】**  
中の滞留スペースでは休憩ができる、また散策中にキノコや山菜を収穫できる。散策路が繋がる台地上の畑では地元の人が育てた食材の販売が行われる。



100m



## 谷津田が利用される町の風景

町でできた酒を各所で飲む

谷津田が利用され、生産の場となることをきっかけに、町中心部の地域資源が利用されていく。

旧道を介した市街から谷津田へのつながり



現在、利用されていない市街地のため池や文化財が、飲食やそれに伴うくつろぎ、子どもたちの遊び場となっていく。このような酒造りから始まる賑わいの空間が街全体に広がっていく。

# E

# 谷津

# 谷津に振り切る



石 露  
工学院大学大学院  
建築学専攻 M1



福井 新  
法政大学大学院  
都市環境デザイン工学専攻 M1



山根 直葵  
東京大学  
緑地環境学専修 B4



齋藤 玲皇奈  
東海大学  
観光学科 B3



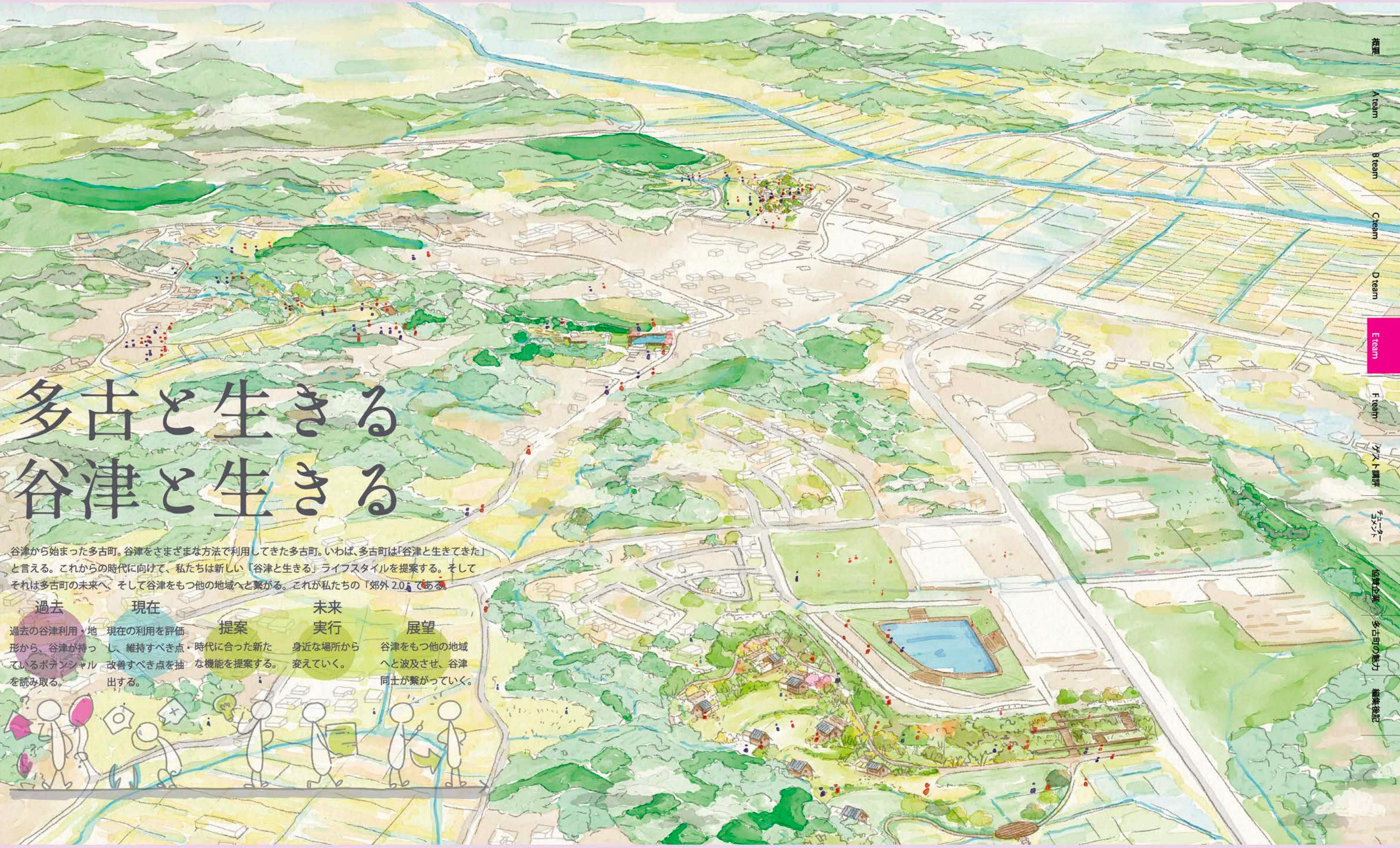
増田 悟樹  
東京農業大学  
造園科学科 B3



大山 奈津美  
フィールドフォー・デザイ  
ンオフィス



坂本 幹生  
ランドスケープ・プラス



# SURVEY

## 過去の谷津利用を読みとく。

明治期の地図である迅速測図から多古台周辺の谷津の地理的特徴及び利用形態を分析した結果、過去の谷津利用にはある程度の法則性があることが分かった。



多古台の東西に位置する多古橋川と栗山川の流域には多くの谷津が存在していた。そこで、明治期に作成された迅速測図を用いて、これらの谷津すべてをナンバリングし、そこから読み取れる地理的特徴及び利用形態の分析を行うこととした。



分析は、迅速測図に記してある情報から左図の4項目について調査した。同様の調査を多古台周辺の2流域計72箇所の谷津に対して実施することで過去の谷津利用の実態の把握を試みた。

谷津番号	谷津名	面積	南北差	東西差	方位	距離	傾斜	土地利用
T-01	1	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-02	2	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-03	3	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-04	4	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-05	5	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-06	6	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-07	7	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-08	8	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-09	9	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-10	10	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-11	11	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-12	12	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-13	13	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-14	14	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-15	15	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-16	16	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-17	17	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-18	18	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-19	19	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-20	20	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-21	21	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-22	22	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-23	23	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-24	24	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-25	25	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-26	26	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-27	27	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-28	28	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-29	29	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-30	30	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-31	31	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-32	32	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-33	33	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-34	34	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-35	35	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-36	36	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-37	37	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-38	38	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-39	39	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-40	40	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-41	41	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-42	42	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-43	43	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-44	44	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-45	45	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-46	46	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-47	47	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-48	48	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-49	49	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-50	50	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-51	51	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-52	52	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-53	53	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-54	54	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-55	55	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-56	56	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-57	57	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-58	58	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-59	59	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-60	60	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-61	61	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-62	62	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-63	63	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-64	64	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-65	65	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-66	66	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-67	67	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-68	68	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-69	69	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-70	70	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-71	71	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-72	72	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田

谷津番号	谷津名	面積	南北差	東西差	方位	距離	傾斜	土地利用
T-01	1	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-02	2	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-03	3	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-04	4	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-05	5	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-06	6	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-07	7	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-08	8	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-09	9	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-10	10	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-11	11	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-12	12	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-13	13	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-14	14	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-15	15	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-16	16	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-17	17	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-18	18	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-19	19	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-20	20	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-21	21	400	7.4%	12%	北	100m	10%	水田
T-22</td								

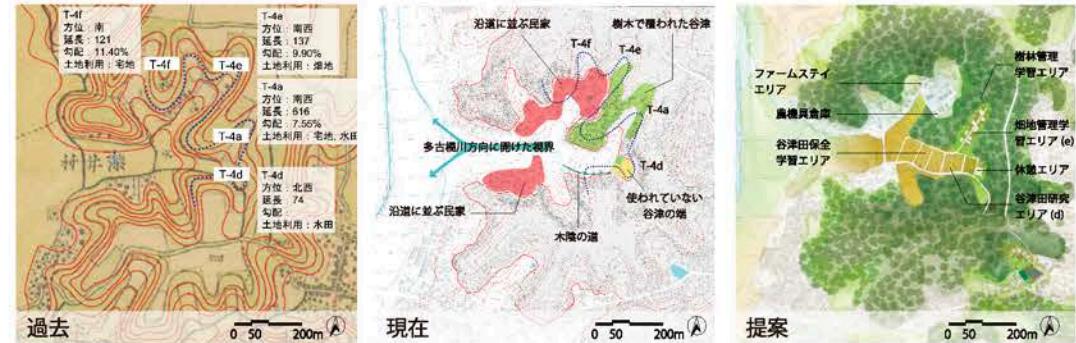
## CASE STUDY

### CASE 1：谷津 × 玄関 × 体験 「多古町の玄関として来訪者を出迎える体験・宿泊施設を提案」



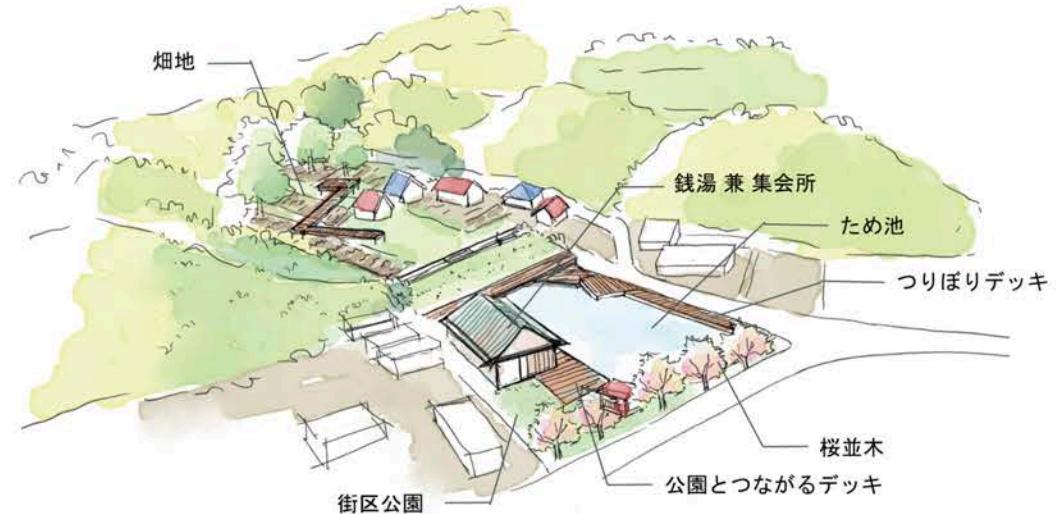
「過去」南向きで勾配の緩やかな谷津は宅地ではなく、水田として利用されていた。  
「現在」一部急勾配な斜面に変更され、荒廃している箇所もあり、台地は宅地開発されている。  
「提案」この谷津の法則性に従い、多古町の玄関として宿泊施設を提案する。

### CASE 2：谷津 × 水田 × 学び 「農業を本格的に始めたい人に向けた農業学習エリアを提案」



「過去」西を向いた広大な水田。その境界部や奥地は宅地と畠地として利用されていた。  
「現在」周辺で生活している住民の手によって健康的な水田が維持されている。  
「提案」そこで、農業を本格的に始めたい人に向けた農業学習エリアを提案する。

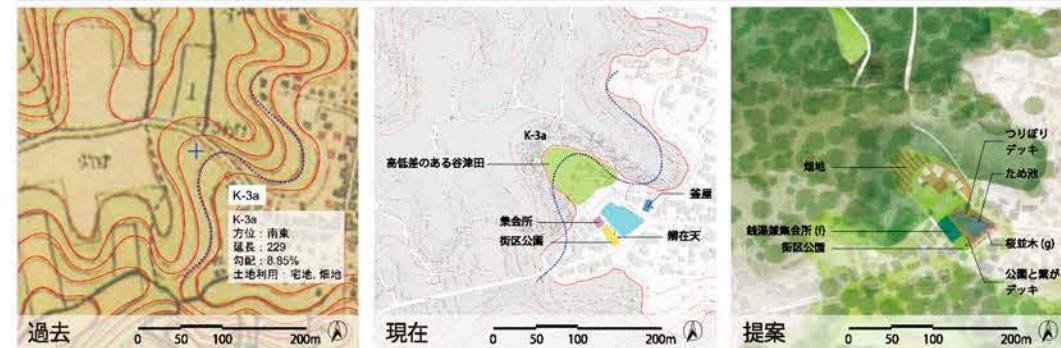
### CASE3：谷津 × ため池 × 交流 「銭湯と集会所を核とした地域の新しい交流拠点を提案」



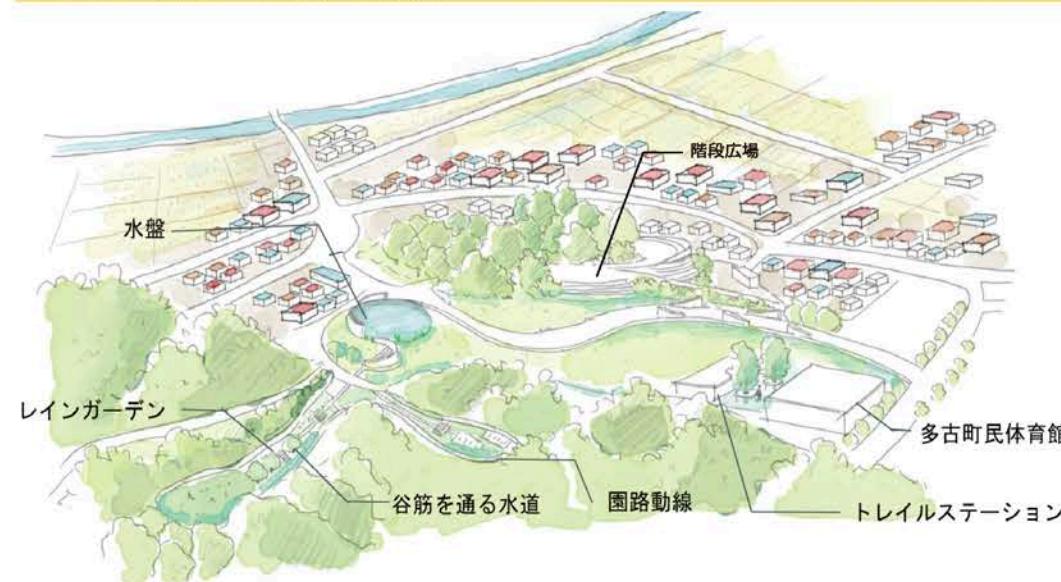
「過去」ため池を有した谷津は、釣堀や桜並木などのレクリエーションで賑わっていた。

「現在」土地利用に変化はなく集会所や公園が整備されたが、住民の交流はなくなっている。

「提案」かつての賑わいを再興し得る銭湯兼集会所を備えた交流拠点を提案する。



### CASE4：谷津 × 公園 × 健康 「分断された谷津を繋ぐ健康をテーマとした公園を提案」



h. 平常時は両親が遊ぶ子供たちを見守り、イベント時は観客席として活用される階段広場。

i. 緩やかな傾斜と周囲の自然を楽しみながら散策できるレインガーデン。



「過去」3つの支流から成る大きな谷津。それぞれ異なった特徴を持っている。

「現在」道路や公園、公共施設、宅地などが造成され、3つの谷津は分断されている。

「提案」谷津と公園を一体に整備し、健康をテーマに市民に寄り添った空間を提案する。

# F

#多古台  
#開発



前川桃香  
東京農業大学  
造園学専攻 M1



黒梅理香子  
東海大学  
観光学部 B3



方昱凱  
多摩美術大学  
美術研究科 M2



大塚彪雅  
東京大学  
社会基盤学専攻 M1



川上健太  
法政大学  
環境デザイン工学科 B4



原崎寛明  
CHA

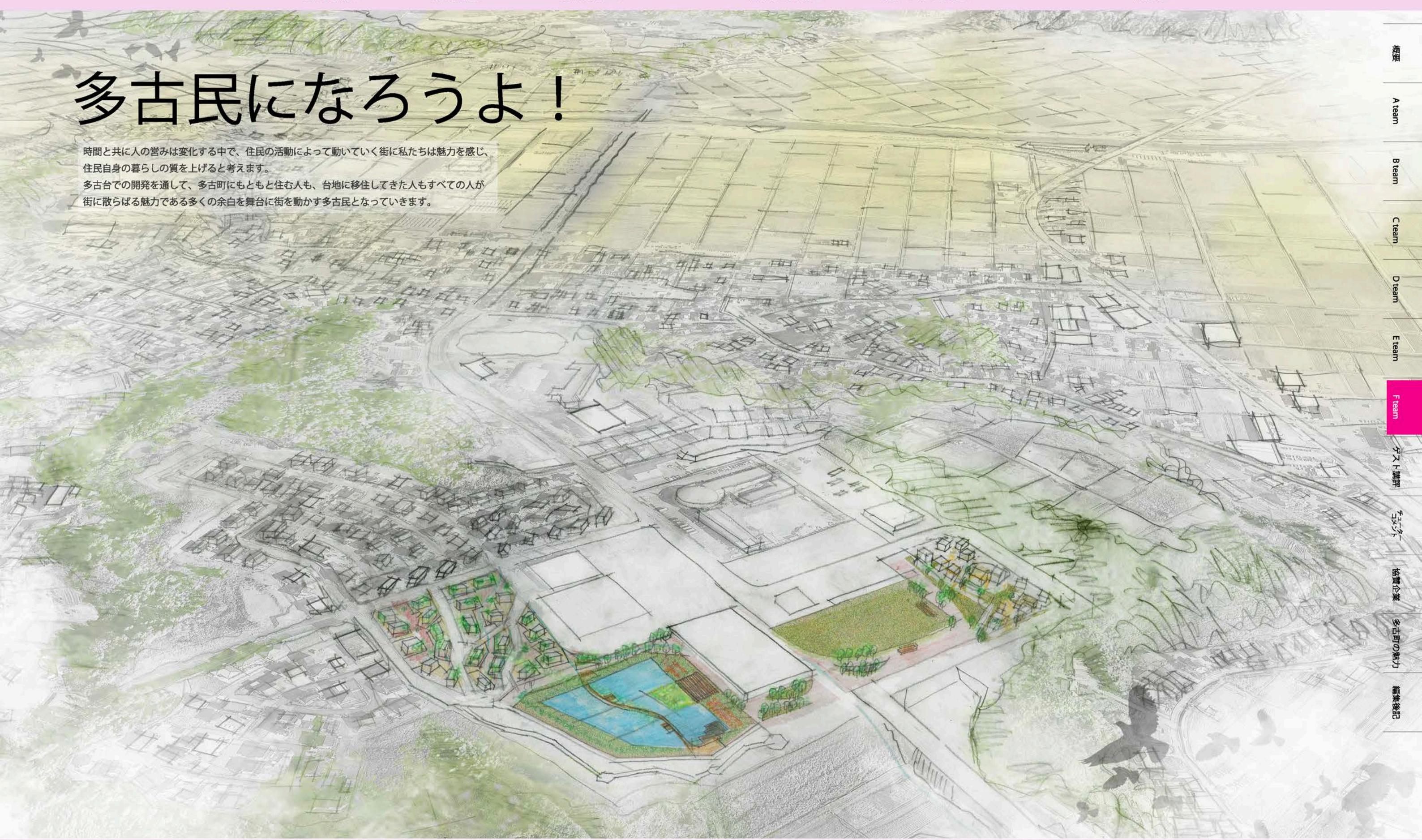


中川晃太  
パシフィックコンサルタント  
株式会社

## 多古民になろうよ！

時間と共に人の営みは変化する中で、住民の活動によって動いていく街に私たちは魅力を感じ、住民自身の暮らしの質を上げると考えます。

多古台での開発を通して、多古町にもともと住む人も、台地に移住してきた人もすべての人があなたの街に散らばる魅力である多くの余白を舞台に街を動かす多古民となっていきます。



概要

A team

B team

C team

D team

E team

F team

ゲスト講師

チーフター

協賛企業

多古町の魅力

結果発表

## ○現地調査 台地である多古台と低地の印象

台地



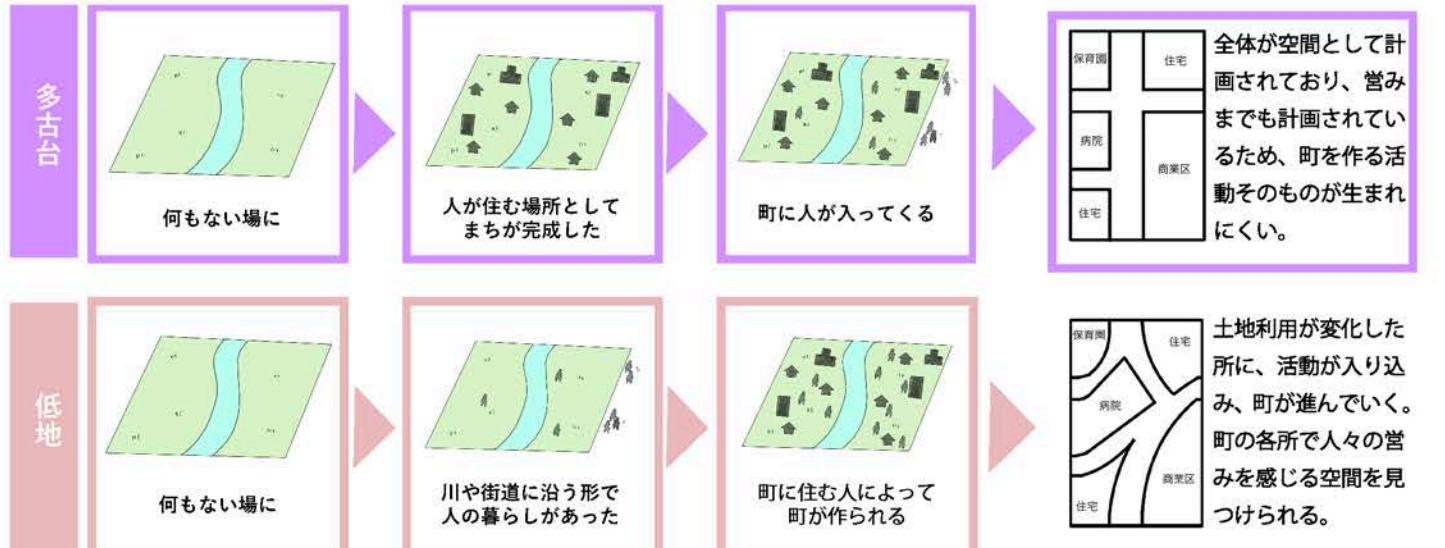
低地



人が暮らすためにデザインされた街並み

人の営みが想起される街並み

## ○分析 多古台と低地の街並みの印象の違いは町の成り立ちの違いによって生まれていた。



▶ 低地には空間的な余白とそこに入り込んで活動する多古民が存在する

余白とは…「計画者の意図によらずできた街中の空間」

多古町には長い歴史を重ねた町だからこそ見出されていなかったり、街に関わる人が減ってしまったことで使いこなせきれない魅力的な余白がいくつもある。



多古民とは…「多古町に愛着をもち、自分事として街に変化を与える住人」

現在の多古町において、余白に入り込む多古民の活動が見られ、多古町を自分事として考え動かすポテンシャルを持つ住民が多い。



## ○提案 多古台の手が付けられていない地区

多古台の手が付けられていない地区

現在、開発が行われている多古台において未だ手を付けられていない住居地区IIと複合施設地区、使われていない遊水池を中心提案を行う。



凡例	表示
区分	
地区計画区域及び地区整備計画区域	■
住宅地区I	■■■
住宅地区II	■■■■
子育て支援施設地区	■■■■■
複合施設地区	■■■■■■
交通利便指向地区	■■■■■■■
商業地区	■■■■■■■■

## ○提案

多古台における

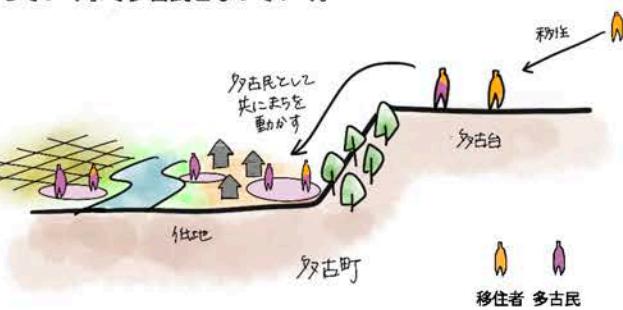
多古民のための

多古町に優しい開発

やさしい開発とは、多古台への移住者が既存の住人と関係をもって暮らしていく中で、信頼関係や街に寄与して暮らしを豊かにする考え方を醸成する場所の設計。

## ○仕組み

移住者が多古台での暮らしをきっかけに低地に入り込んでいく。低地で人口減少によって使いこなせなくなった余白を共に管理し街を動かしていくことで多古民となっていく。

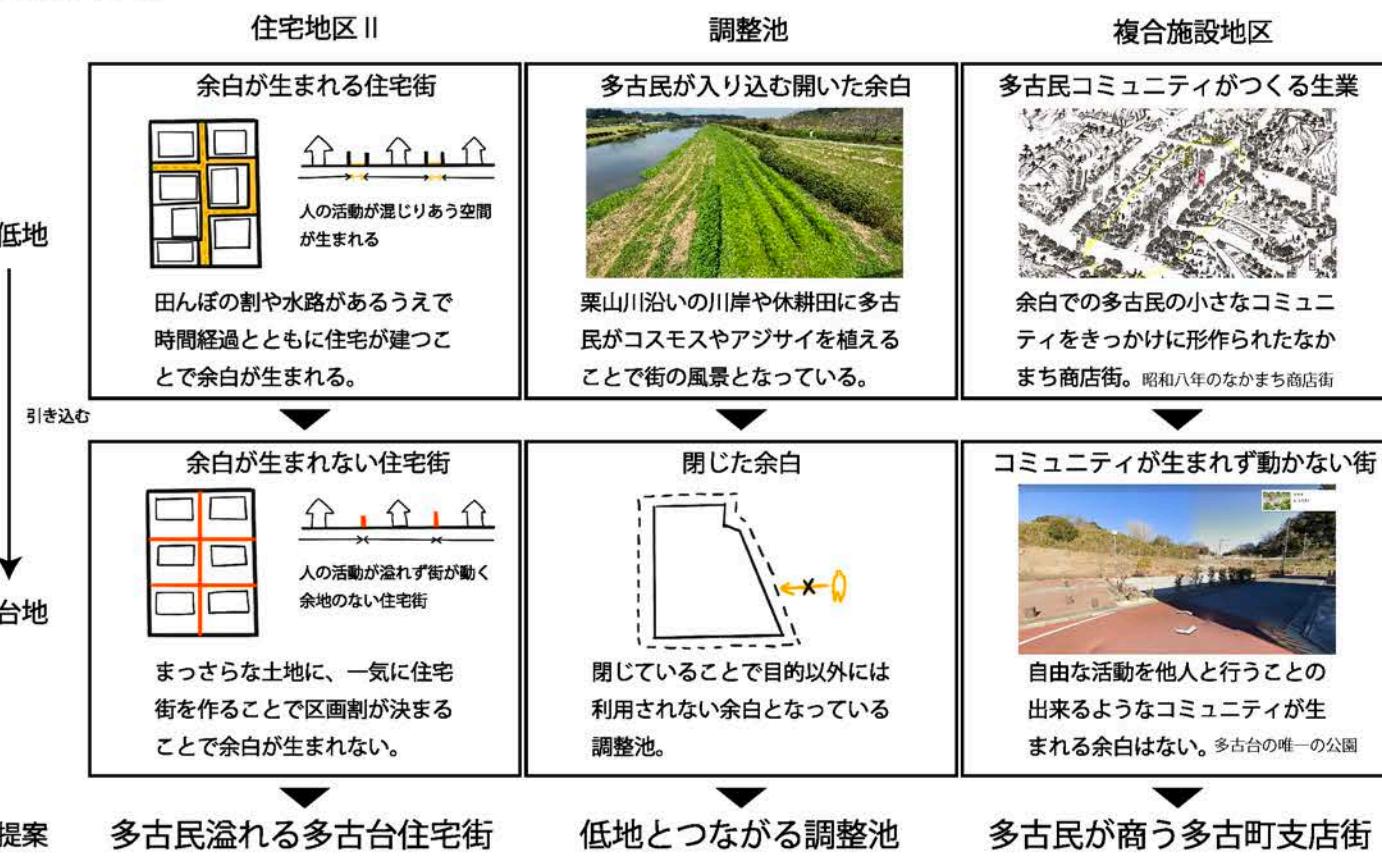


多古台のやさしい開発の各場所において、低地の余白の要素を引き込む。

## ○提案対象地(多古台)と低地の繋がり

多古台でのやさしい開発において低地のまちの成り立ちに基づいて設計を行う。

その土地の文脈を無視した従来の開発とは違い、低地にある余白の要素をひきこむことで多古台での風景や暮らしぶりは低地の文脈を引いたものとなる。移住してきた人々は多古台で暮らしながらも、低地を使い込むことが出来るようになり低地を現住人と共に使い込むことで多古民となっていく。



## KEY PLAN



## 提案実現のための多古町応援団

多古町にある余白で活動をしたいと考える多古民を支援する多古町応援団を組織します。多古町応援団は街の空間の中でも住人が関わることができる余白への活動を担当部署や公民の立場を超えて支援します。



## 多古民溢れる多古台住宅地

### 平面図



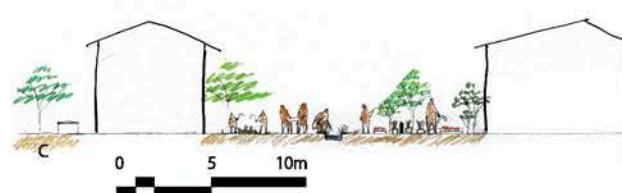
現在の新興住宅地では、家の区画と車や歩行者が通る道によって構成され、台地にある唯一の公園は新興住宅地の一番奥に位置している。そのような中で多古台での住民の暮らし方は自分の家とそのほかの目的の場のみでありコミュニティを育むことが出来るような余白が少ない。

そこで、住宅地の中に区画割によって近隣住人によって管理される、共有の居場所を生み出す。

多古台住宅地での町を共に使い管理する暮らしを通して低地で現在、使われていない余白を使いこなす多古民となる。

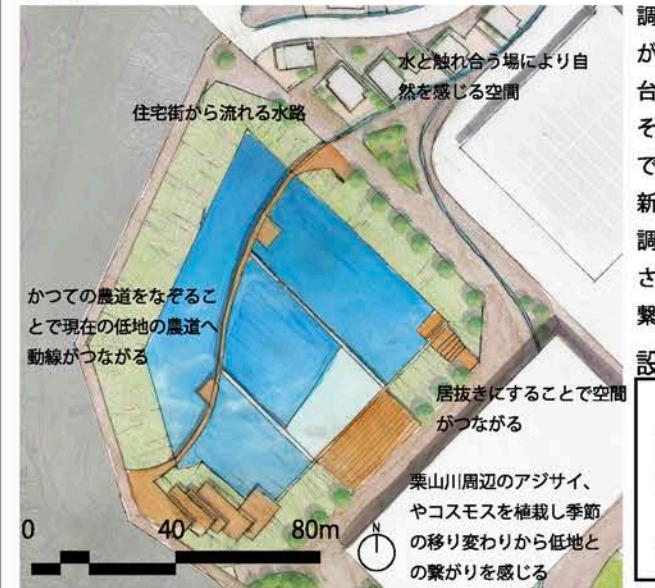


断面図



## 低地とつながる調整池

### 平面図

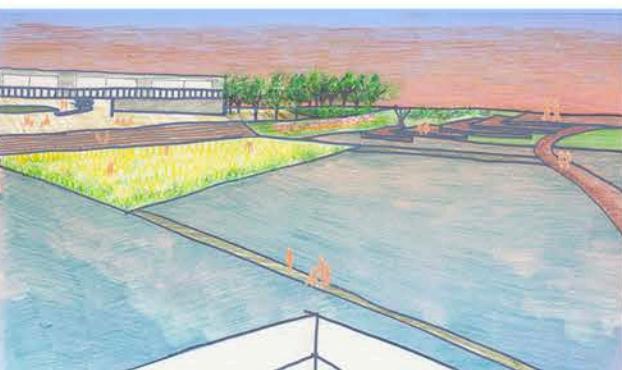


調整池は倉庫の後に隠れ、周囲の公園との間にはフェンスがあり、調整池としての目的以外では利用されないこの多古台の余白となっている。

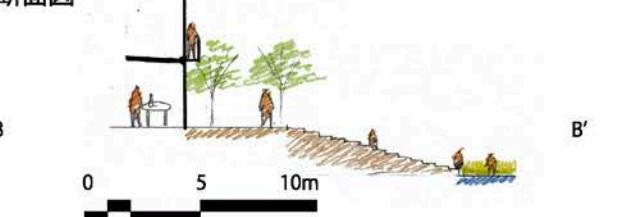
そこで、目の前の倉庫を居抜きとし、調整池に道を通することで風景や動線が周囲とつながり、水との関係性を感じられる新しい憩いの場を提案する。

調整池広場では新たな台地の活動によって、風景が生まれ、さらにかつてあった農道の骨格を引き込むことで、低地との繋がりを生み出す。

### 設計ダイアグラム

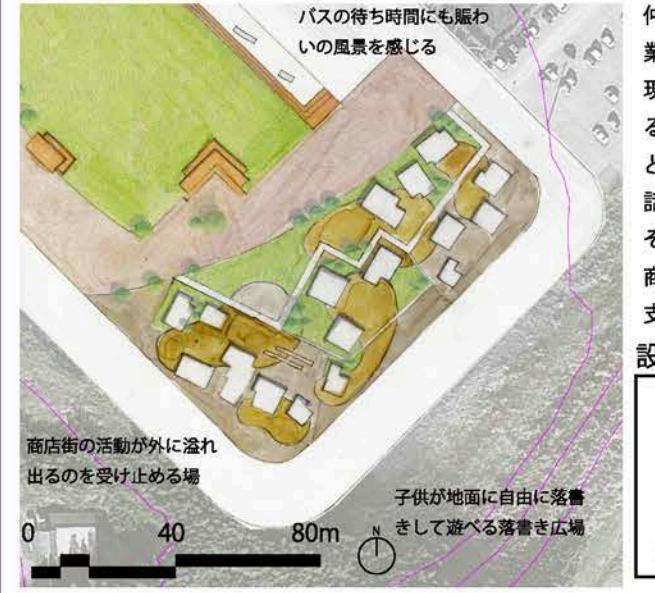


断面図



## 多古民が商う多古町支店街

### 平面図



仲町商店街は歴史性を持ちながらも、業態を変え、新しい事業者を受け入れ、変化しながら多古町に根付いてきた。

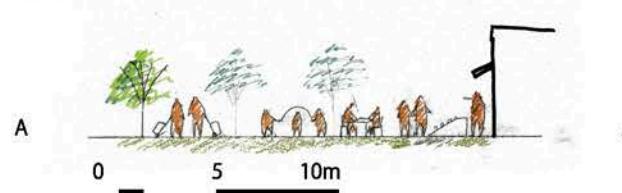
現在、後継者不足を課題としている中で「ずっと多古町に住んでる人、商店街を利用してる人とかでものすごい熱意のある人とかだったら他の人に継がせてもいいだろうね。」といったお話を伺った。

そこで台地に移してきた方々が商店街と関係を築き、仲町商店街を盛り上げる多古民になるきっかけの場として「多古町支店街」を提案する。

### 設計ダイアグラム



断面図



# ゲスト総評

(株) オフィスアーティ  
石井秀幸  
野田亞木子

## ランドスケープ

### 経歴・プロフィール

「終わらない場づくり」「自分ごと化する場づくり」を掲げた人の原風景づくりに取り組み、ランドスケープデザインを軸足において設計活動およびプロジェクトディレクションを全国で行う。

受賞作品：町田薬師池公園西園四季彩の杜ウエルカムゲート（造園学会賞・作品部門）  
石巻・川の上プロジェクト、能作新工場・社屋、那須塩原市図書館みるる+駅前広場、  
さいき城山桜ホール周辺地区の4作品（グッドデザイン賞）  
近作：大阪中之島美術館、リーフコートプラス他



### 学生時代興味を持って取り組んだこと

学生時代は海外も含めて色々な所へ旅行に行きました。学校の中で話を聞いたものを見実際に見に行き体験する、その場所で過ごすなど今の仕事に繋がる貴重な体験ができたと思います。又、皆さんと同じ様に夏休みのワークショップなどにも参加し他大学の学生との意見交換にも刺激を受けました。何でもない様に思えるアルバイトなども含めて色々な経験が今の設計に繋がる体験になっています。（野田）

### SUMMER STUDIO の感想

まずは参加のみなさん濃密なグループディスカッション、提案お疲れ様でした。  
改めて、ひとつの場に集まって行われるワークショップの面白さ、実際の敷地を自分の足で見た上で行われる議論などオンラインの世界だけではできあがらない「ランドスケープらしい」ワークショップだったと思います。  
学生もチーチャーも、現実の敷地を舞台に提案し、実際に関わっておられる方にお話しを聞いて頂く貴重な機会だったと思います。これから期待も込めて、もう一步提案に重きを置き踏み込むもっと議論ができる展開になったかと思います。是非、色々なスケールで世界をみて提案ができる、ランドスケープデザインの醍醐味を楽しんでもらいたいと思います。（野田）

### A班、F班に対するコメント

#### A班「ぐるぐるアース」

風景をデザインする上で、場のもつ潜在的な個性や課題を読み解きながら、固有の場へと変換するプロセスはとても大切です。そういう意味でA班の提案はとても共感しました。台地と谷津田が入り組んだ地形、河川、水田と多古町特有の豊かな自然環境と豈みの風景に対して、遊びの場を溶け込ませていました。それらをフットパスで繋ぐ計画は、最小限な手を加えながらも面的な波及効果をもたらす秀逸な提案だと思います。訪れた人々が、まちの風景に身を委ねたり、対話を重ねながら大切な人とともに成長するきっかけになっていくと思いました。（石井）

#### F班 「多古民になろうよ！」

人は古から自然地を切り拓きながら集落や街を広げていきました。しかしながら、現在の私たちは、気候変動をはじめとする多くの環境問題に直面しており、地球環境を意識した場づくりを行わねばなりません。F班の提案は、そのような状況に対して、ひとつの回答になる可能性を秘めています。台地には、地域外から移住者の受け皿ととられた豊かな環境をもつ住宅地を整備し、低地にある既存建物やインフラを変換しながら、台地と低地のコミュニティをつなぐような提案がされていました。まちの持つ自然環境や資産を活用し、新しいものを受け入れ融合を図るあり方は、持続的なまちのあり方としてモデルになると考えます。ランドスケープデザインの職能を広げるような意欲的な提案をこころから讚えたいです。（石井）

### 学生に対するメッセージ

学生の皆さん、意見をまとめたり、交換したりする中で上手くいかないこともたくさんあったと思います。今後どんな職業についても必ず役に立つ経験ですので、このワークショップに参加すると決めたこと、やりきったことに誇りを持って下さい。好きなことや興味のあることに自分で信じて進んだ上の提案、そういった案ができた時に開ける世界があると思います。信じて進めることを楽しんでください。（野田）

(株) 上條・福島都市設計事務所

## 上條慎司

### 経歴・プロフィール

大学院を出たのち、2011年から9年間ほど小野寺康都市設計事務所に在籍しました。この間、大槌町や女川町などの震災復興事業を通して、計画から詳細設計まで関わった経験が今の自分の大きな礎となっています。

学生時代から、都市をフィールドにした設計行為を通じて地域にコミットしていきたいという想いがあり2020年に設計事務所を開設しました。



## 土木 + ランドスケープ

### 経歴・プロフィール

大学院を出たのち、2011年から9年間ほど小野寺康都市設計事務所に在籍しました。この間、大槌町や女川町などの震災復興事業を通して、計画から詳細設計まで関わった経験が今の自分の大きな礎となっています。

学生時代から、都市をフィールドにした設計行為を通じて地域にコミットしていきたいという想いがあり2020年に設計事務所を開設しました。

### 学生時代興味を持って取り組んだこと

一年間の留学先であったストックホルムを起点にヨーロッパ各地、大学で知り合った知人の故郷や地方都市を旅しました（ex. テッサロニキ、サンセバスチャン、ストラスブル、クオピオ等）。地域の生活に根付いたパブリックスペースを見たい、生活と空間との関係を掴みたいと思ったからです。なので同じ都市に最低3日は滞在。この体験がデザインの引出しの1つです。

### SUMMER STUDIO の感想

短期間で膨大なエネルギーが集中投下された、学生の皆さんアウトプット、プレゼンテーションを目的にすることができ、喜びを感じました！人の心を揺さぶるような熱量に対して真剣に向き合わねば、と背筋が伸びました。そして、石井さん、馬場さん、伊藤さんと共に、学生の方々のアイデアの中に潜んでいる本質を見抜こうと、適格な言葉を模索した時間はとても貴重な経験となりました。おそらく相当お忙しい中、こうした充実したスタジオをバックアップされたチーチャーの方々、事務局の方々には頭が上がりません。素晴らしい会にお声がけ下さり、誠にありがとうございました。みなさま、大変お疲れ様でした！

### B班、D班に対するコメント

#### B班「キワをキワめる」

台地から河川まで、町内を東西方向に分割している地形的、土地利用的エッジに着眼し、そのエッジの今後の在り方を考えた案。多古町の魅力をより高めるエッジとはどういったものか、という問い合わせであったと思う。エッジを一辺倒に扱わず特性別に分類した分析やダイアグラムは明快であったが、それだけにエッジに直接的に手を加えた提案にはやや物足りなさも覚えた。キワをキワだたせるのは、キワをなぞることなのだろうか、という問い合わせである。具体的には、キワを強調する操作のみでなく、その前後も含め横断するような構造の可視化、両エリアを跨ぐプログラムとデザインの提案がなされれば、より説得力のある提案になったのではないか。また、分析結果を整理した有機的なダイアグラムを活かした、より有機的なプランニングもあったかもしれない。

#### D班「やつだみざけ」

多古米と多古水を活かして多古酒をつくってはどうか、という考えられそうで考えられていなかったユニークな提案。米と水がおいしいからといって果たしておいしいお酒が出来るだろうか、という課題は棚上げするとして、酒造工程のあらゆる側面をクローズドにせずオープンにすることで、名産品の発案に留まらず空間へと展開することが期待された。提案では、田んぼやため池を活かした風景、農業体験といった観点からウリを説明する側面が大きかった。もう少し酒造の具体的工程に目を配らせつつ、田んぼ、ため池、酒蔵、販売所、運輸拠点等の様々な施設の配置関係や相互連携を、地形、交通網、公共施設等も絡めたまちづくりの戦略の中に位置づけ、新しい酒蔵の姿を打ち出せればオリジナリティーの高い提案になったと思う。

### 学生に対するメッセージ

短期間での集中的な演習お疲れ様でした！皆さんに伝えたいのは、今回うまくいった、いかなかつたは全く気にしない方がよい、です。うまくいったチームはあぐらをかいてしまふと成長しない、うまくいかなかつたチームはセンスがないと思い込んでしまうと先に進めません。デザイン力は磨けるもの。とにかくデザインを好きであること、多少失敗してもやり抜くことこそが次の成長につながります。またスキルアップした皆さんとどこかで会えるのを楽しみにしています！

(株) AMP/PAM(アンパン)  
伊藤 孝仁

## 建築

### 経歴・プロフィール

乾久美子建築設計事務所を経て、2014年から2020年までトミトアーキテクチャ共同代表

2020年よりAMP/PAM(アンパン)代表

2020年よりアーバンデザインセンター大宮【UDCO】デザインコーディネーター  
家具から都市まで、ストリートからランドスケープまで、さまざまな角度からの建築への関わりを通して、地域や社会の変容を考え実践している。

主な実績、作品として「吉祥寺さんかく屋台」「CASACO」「庭が回る家」「真鶴出版2号店」「農家住宅の不時着」



### 学生時代興味を持って取り組んだこと

設計課題は楽しかったので、それだけ一生懸命取り組みました。

大学院の時、ダンス/ファッショントーク/建築を学ぶ学生が集まり、各分野の第一線で活躍する講師のもと一夏をかけてダンス公演を実現するワークショップに参加して、実際にものをつくる楽しさを体験でき、多分野への興味が広がりました。今も交流が続いているます。

### SUMMER STUDIO の感想

普段は建築系の設計課題の講評に参加することが多いので、リサーチからデザインへの繋がりの良さに驚かされました。鳥の眼と虫の眼、悠大な時間感覚と現在の切実な時間感覚、社会的なものと個人的なもの、各チームごとにこれらを複層的に接続しながら、さまざまなスケールや対象へと落とし込んで提案していました。人口減少時代とは、ランドスケープ的な思考が求められる時代だと思います。さまざまなものに横串をさせていくようなことを、実現していく私自身も思いました。

### D班、F班に対するコメント

#### D班「やつだみざけ」

多古町の環境が持つ特徴や資源性から、その組み合わせによってあり得る（かもしれない）「お酒」というコンテンツを導き出して、その生産の場や楽しむ場づくりとして環境を改変していく提案でした。風景の結晶としてのコンテンツをある種捏造することから、風景を問い合わせていく流れが大変面白く、農的な生産からツーリズムまで繋がるテリトリオ的な思考に繋がる感覚がありました。お酒造りがいかに可能かの説明に偏っていたのが残念で、仮定の先に実現される風景が「これはいいね！」とさまざまな人々の共感を得られるかどうかが一番大切だと思います。

#### F班「多古民になろうよ！」

やさしい再開発という不思議なタイトルにまず引き込まれる提案でした。一般的に再開発というと小さな単位をまとめあげ大きな施設を作ることを指しますが、もう少し広い意味で捉えているようです。新興住宅地では大々的な建築行為、旧市街地ではささやかな空間変更、と方法を分けて提案していましたが、どのように交わってくるのかがわかると良かったと思います。また「やさしい」の意味するところを深掘りしないといけないと思いました。相手を思って厳しく言うことの方が、その場限りの表面的なやすしさよりも大事だったりするので。

### 学生に対するメッセージ

今回のワークショップもそうですが、自分のいる環境を広げていくことはとても大事だと思います。思っているよりも自分の身の回りは小さな世界なので、その中でどう振る舞うかに囚われるのもったいないですし、近道ばかり考えてしまいがちなので、こんな世界もあるのか！という遠回りの体験をたくさんできると良いと思います。

建築ライター  
NPO 法人南房総リパブリック  
馬場 美織

## 暮らし

### 経歴・プロフィール

「平日は東京で暮らし、週末は千葉県南房総市の里山で暮らす」という二地域居住を実践



### 学生時代興味を持って取り組んだこと

誰もが楽しみを享受できる場はどうしたらつくれるか、ずっと考えていました。お金のあるなしで体験に差が生まれないしきみが欲しかったです。ホールから飛び出して公園で行うコンサートや、浜辺でダンスを見るインスタレーション、大きな球状の竹籠を組んでその中に座り夕日を眺めるインスタレーションなど自主的につくっていました。

### SUMMER STUDIO の感想

学生の学びの場でありながら、すべての関係者が「本気でまちを変えたい」という意志を持ち参加している姿に心打たれました。多古町という複雑な魅力と課題を孕むまちを前に奮闘したこの夏、学生たちの「見えないものを見抜く力」は一層高まったのではないかと思います。今後彼らの人生経験がより深まってきた時、ここでの学びが改めて生きてくるはずです。また、普段建築分野の仕事に関わることが多いこともあり、ランドスケープという仕事の組み立て方を知り、大変魅了されました。丁寧に冷静に多古町を分析し、ファクトベースで構想を練る。そのプロセスの謙虚さと視座の高さは、歴史家の構えとも似ている気がしました。

### A班、C班に対するコメント

#### A班「ぐるぐるアース」

環境の違いを「遊び方の違い」に反映させて遊び場を配置していくコンセプトは、筋がいいと思います。遊び場が現地素材で補修・更新することで「遊び場に手を入れる仕事」が地域に発生して、愛着も生まれていきそうですね。一方、使い手のこどもにとって、遊びとは？という捉え返しも必要かもしれません。こどもは自由な意志で行きたいところに行き、ダメと言われることほどやりたくなるやっかいな生きものです。複合遊具のように「いろいろ楽しいでしょう！」と大人が誇らしくつくりあげたものだけではなく、こども自体の発見を促し創造力を掻き立てる絶妙に放置された空隙をどうもたらすか。「つくらないをつくる」という難問にチャレンジしてみて欲しいと思います。

#### C班「巡り巡ってあじわう多古」

エリアの魅力を動線体験と重ね合わせるユニークな案だと思います。まちのなかを縦断する新交通システムと、スマールエリアを丁寧に体感するたこみちや拠点とがうまく絡めれば、新しい観光スタイルが生まれるかもしれないですね。成田に近い場所であることからも、合理性と相反する価値観を打ち出したかったのも理解できます。ただ、道というのは人の行動を限定するものです。あえて方向性を物理的に強制するしくみをつくるのであれば、何か必然性（自然保護のためにつくられた尾瀬の木道のように）が伴わなければ不自然になる場合があります。空と水と土の魅力を感じたい、感性を解放したい、という目的に立ち返り、ルートや拠点の根拠を問い合わせてみてください。

### 学生に対するメッセージ

学生時代に持った疑問は、その後生涯を通じて自分のテーマになることが多いです。いま何か引っかかることがあれば、徹底的に考えてみる。実際に動いてみる。その時点では鮮やかな解答を手に入らなくとも、時間をかけて考え続けること自体がクリエイティビティの源泉になっていくはずです。このサマースタジオは「考え方」と見つけるきっかけになった人もいるのではないでしょうか。これからも多様な場面に身を置き、鳥の目と鷹の目を宿してください。

(株) 地域環境計画

## 井上 剛

### 環境

#### 経歴・プロフィール

大学 造園学／緑地環境計画学専攻

「緑地空間と生きものとの関係」について興味を持ち、卒業後「生きもの造園」の分野で活動。魚類や水生昆虫などの水辺の自然を専門とし、近年では外来種や獣害などの人と自然との軋轢にも対応するなど自然環境に係る様々な分野に関わる。

(株) 地域環境計画 所属  
(株) エスアイエイ環境事務所 代表取締役



#### 学生時代興味を持って取り組んだこと

私が大学に入った頃、『ビオトープ』という言葉が現れました。最初は??でしたが、私はそれに興味を示し、先生から多くを学び、また沢山のヒントをもらい、現場に足を運び…それから25年が経過しました。まだまだ道半ばではありますが、地域の自然環境を読み解く“チカラ”は身に着いたのではないか、と思います。

### SUMMER STUDIO の感想

私の役割は多古町の自然環境についてのインプットでした。私としては、多古町には独特な地形「谷津」から形成される里山生態系が成立していて、これは人と自然・生きものとが一体となって作り上げた、日本のどこにも引けを取らないほどの素晴らしい自然です、的なことを熱っぽく語ったつもりですが、皆に伝わったかな?

人生初のサマスタに参加させていただき、私もとても勉強になりました。兎角わかりづらい生きもの側からのメッセージを空間デザインに反映してもらうには、参加者にどう伝えれば理解されるのか…実は、資料づくりは糸余曲折でした。生きもの造園に生きる者として、必要であればまた呼んでくださいね。とても楽しかったです!

#### B班、E班に対するコメント

##### B班「キワをキワめる」

この「キワ」というキーワードは、生物多様性保全を考えた場合、極めて重要な意味を持ちます。専門的には「エッジ効果」とも呼ばれます。まさに谷戸の樹林と水田、さらには居住地とが複雑につながる接合線を考えるということは、地域の自然を活かし、継承していくことに繋がる重要な視点です。Bチームは、このキワをさらに巧みに利用して、地域づくりに取り組んでいる点はとても興味深いです。里山と地域コミュニティを馴染ませる溶かすキワ、また地域外との出会いを意識・演出する際立たせるキワ、さらに具体化するためには、時間軸を考慮する必要がありますが、こういった視点を深掘りしてより良い作品を作成していただければと思います。

##### E班「多古と生きる 谷津と生きる」

多古町が持つ地域ポテンシャルを最大限に引き出すことができる作品だと感じました。特にCase1は、日本の素晴らしい里山文化を成田というアクセスポイントを使って、世界へ発信する画期的なアイディアだと思います。さらに、宿泊体験を伴った体験は、昼間では味わうことができない幻想的な夜の空間が堪能でき、世界のみならず、日本人にとっても掛け替えのない体験になるでしょう。一方Case 2では、伝統的で美しい谷津田景観を未来へと繋ぐ地域連携の仕組みを取り入れている点で注目できます。日本の里山は人が関わり続けて初めて維持できる環境です。Eチームの作品には、谷津田とおして、これから地域のるべき姿が詰め込まれていると私は感じました。

#### 学生に対するメッセージ

どのグループの作品も地域の特徴をしっかりと捉え、それを自分たちで解釈し、表現した素晴らしい内容でした。発表を聞いている私も、とてもワクワクさせていただきました。若いチカラって素敵ですね。

これから皆さん、空間を意識する仕事に就かれると思いますが、お仕事をされるときは、ぜひ地域の自然やそれを構成する生きものについてしっかりとリサーチして下さい。そこには思いがけないヒントが眠っているはずです。

多古町 写真左から

## 木内雅巳 平山富子 町長 石井二郎 林勝美



### SUMMER STUDIO の感想

この度は、SUMMER STUDIO2022の開催にあたり、多古町を題材としていただき誠にありがとうございました。【多古町の好きなところ】①都心にはほど近く自然豊かなところ②人が温かいところ。日頃から専門分野について学んでいる学生の皆様に、これほどまでに本町の課題に対して真剣に向き合い、どのチームからも素晴らしい提案をいただけたことは、本町にとって大きな財産であると感じております。参加された学生の皆様におかれましても、短い期間にもかかわらず、見知らぬ土地での地域における課題について研究し、チームの仲間とともに1つの成果としてまとめ上げたことは貴重な経験となったものと思います。今後とも多古町をよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。(木内)

#### E班「多古と生きる 谷津と生きる」

町内の谷戸全72箇所を過去の土地利用も踏まえて分析し、その魅力などを現代で活用することをご提案頂きました。昔は土地の力に頼ってその場を活用していたという分析には本当に脱帽いたしました。先人の知恵を借りて現代の需要などに合うようにアレンジされており、素晴らしい提案でした。(石井)

#### B班、E班に対するコメント

##### B班「キワをキワめる」

急速、トップバッターとなり大変でしたね。テーマは、多古町のキワを極める=キワを極め続けるとのことで、多古台と商店街を融合し、人と環境との新たな仕組みづくりを生む提案で、予算は別にして、とても楽しく、面白いアイデアだと思いました。(林)

#### 学生に対するメッセージ

ご提案いただいた内容については、長期間かけて検討しなければならないものもありましたが、「あらたな多古町のまちづくり」の参考にさせていただければと考えております。ぜひ、この機会をきっかけに多古町のまちづくりに携わっていただければと思いますので、お待ちしております。ありがとうございました。

日本造園学会関東支部長・千葉大学 教授

## 木下 剛



### SUMMER STUDIO の感想

久しぶりにサマスタに参加させてもらい、変わったことと変わらないことがあると思いました。変わったことは、様々な分野の学生さんや社会人チューターが参加されていることです。これは、「ランドスケープ」が、様々な分野を横断する共通言語になったということだと思います。変わらないことは何でしょう。それは、相変わらず学生さんが熱く真摯にこのワークショップに取り組んでいることです。ワークショップを受け入れてくださる地域の皆様、熱心に指導してくださる社会人チューターの皆様、的確で建設的な講評をくださるゲストの皆様のおかげだと思っております。ありがとうございました。

#### C班、E班に対するコメント

##### C班「巡り巡ってあじわう多古」

広域を対象とした唯一の提案であり、地域全体の魅力を高めようとする姿勢を買う。点(拠点)を線でつなぐという考え方には理解できるが、新交通システムなるものの実体や「たこみち」が想定している移動手段を明確にするべきである。また、点と線だけでなく、面(水土空の魅力が感じられる旧村や集落などのエリア)の魅力を高める提案もあったほうがよい。自転車を想定して高低差の少ないルートを想定していると考えられるが、谷を横断する(縦断移動とは異なる景観体験を提供する)サブルートもほしい。

##### E班「多古と生きる 谷津と生きる」

谷戸の可能性を押し広げ、谷戸を核としたエリアのあり方を追求したオリジナリティあふれる提案。谷戸本来の機能として自然な水循環がある。天水や地下水に立脚した水利システムと絡めた提案、谷戸の自然な水循環を支える台地上の土地利用のマネジメントも含めた提案を期待したい。

#### 学生に対するメッセージ

私自身の反省に立てば、挑戦すべきことをもっと絞ればよかったかなと思います。私の場合、興味関心の幅がありすぎて、自身の拠って立つところを意識するのが遅れました。でも、言っていることが矛盾しますが、幅広く何にでも挑戦するのも悪いことではなかったとも思います。選択の幅が広がるので、自分が拠って立つところ、それが自分に備わっているかどうかを自覚するには、今回のワークショップのように、異分野の人達と交流するのが手っ取り早いです。そういう舞台で役割を果たせるなら、あなたの知識や技術は本物だと思います。

# チューターコメント

**A班 井野貴文**

渡:リーダーで良かった。五:伸びしろあるよ。  
高:ビジュアルな観光業界に。李:先生になったらお声がけを。  
武:個性・才能に自信を持って。久:深度を維持して早く形に。

**A班 須藤伸孝**

課題や可能性を発見し、ポジティブな空間や仕組みを考え、言葉や  
絵で他者に伝える。なんてクリエイティブな行為でしょうか。WSで得た  
その力を今後も磨いていってください。

**B班 富士榮宏将**

現地調査では躊躇なくヤブの中に入っていく皆さん、頼もしか  
つです。積極的に調査し、議論し、表現した感覚をぜひ忘れずに  
財産にしてください。

**B班 渡部美香**

ごりごりキワの断面を書いたり、キワとは?の沼にはまつたり、  
ストーリーで迷子になつたりしながらもまとめきったチームの  
馬力に元気をもらいました。お疲れさまでした!

**C班 岸孝**

自分たちが発見した土地の魅力を信じて提案を磨いたことにより、  
他のチームにはない可能性を秘めた提案になったと思います。この経験  
を今後の学生生活に活かしてください。

**C班 松野祐太**

大変なことも多かったと思いますが、貴重な経験ができたと思います。  
僕も皆さんから色々と勉強させてもらいました。今回の経験をポジティブ  
に変換して、頑張りましょう!

各班のチューターのみなさんから

「班のメンバーに向けて」というテーマでコメントをいただきました！

**D班 松本大知**

初めて会うメンバーで濃密な議論やフィールドワークを通して  
1つの提案を作り上げた経験は貴重なものです。私もそのプロセス  
に参加でき、とても勉強になりました。

**D班 小林祐太**

信じるものとことん探求する時間を持つてるのは学生の特権です。  
この貴重で大切な時間を無駄にせず、将来に向けて自分が大事だと  
思えることを見つけて突き詰めてください。

**E班 大山奈津美**

専門や視点が異なる相手と考えを共有し、時間や条件に対して作戦を  
立てつつデザインする経験が糧になれば嬉しいです。過程も成果も反省も、  
ぜひ今後に活かしてください。

**E班 坂本幹生**

分析、表現手法、プレゼンテーションと得意分野が様々なメン  
バーが集まりました。各々の個性を尊重しながら学び合う姿勢を  
これからも大切にしてください！

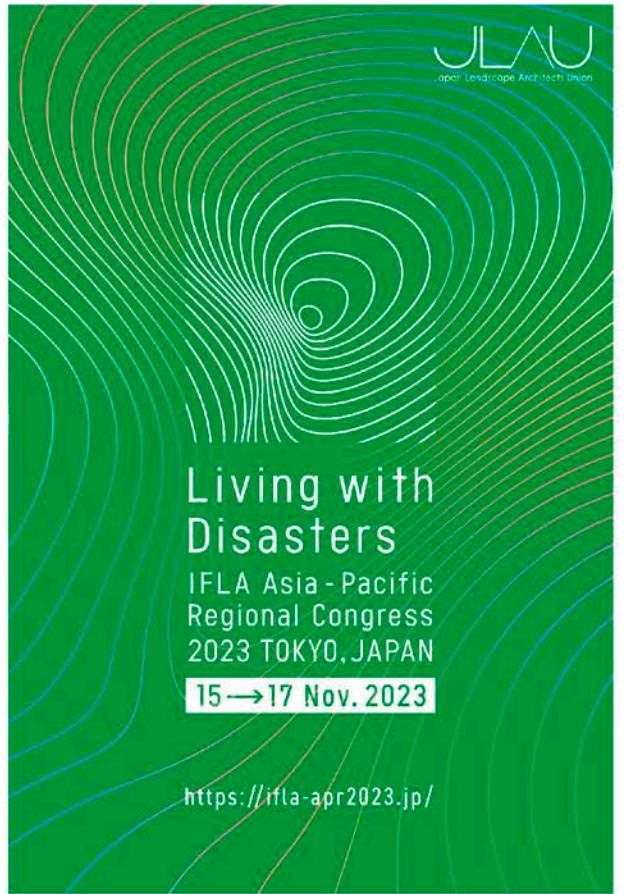
**F班 中川晃太**

難しいテーマに正面から立ち向かった努力は誇ってよいものです！  
それぞれの個性をお互いに尊重する姿勢はこれからも大切にして  
ください。

**F班 原崎寛明**

仲間と一緒に共同設計では、ひとりのときでは超えられない壁も  
超えていけると思います。他者を受け入れることでより広がる  
デザインの面白さを、これからも大事にしてほしいです。

# Summer Studio 2022 ご協賛企業



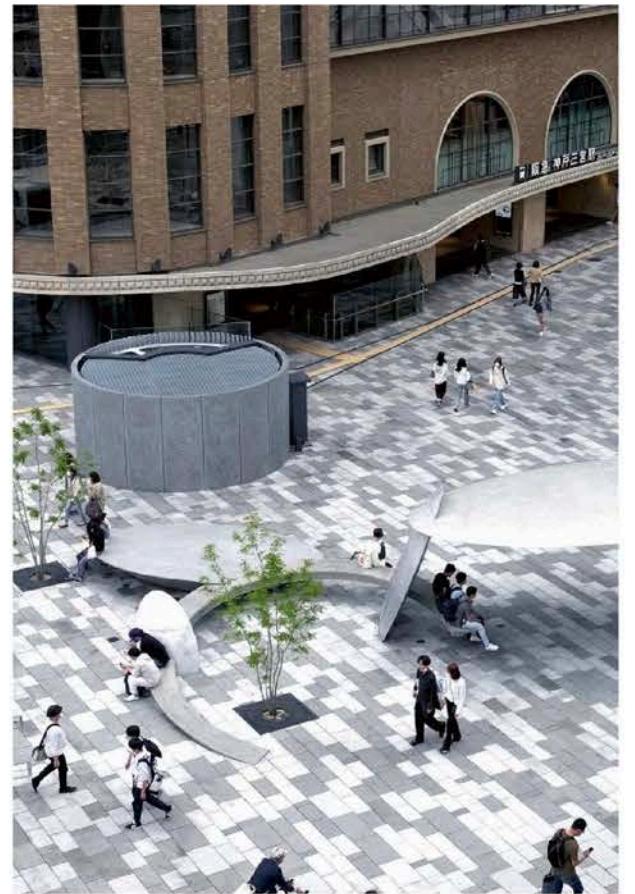
一般社団法人 ランドスケープアーキテクト連盟



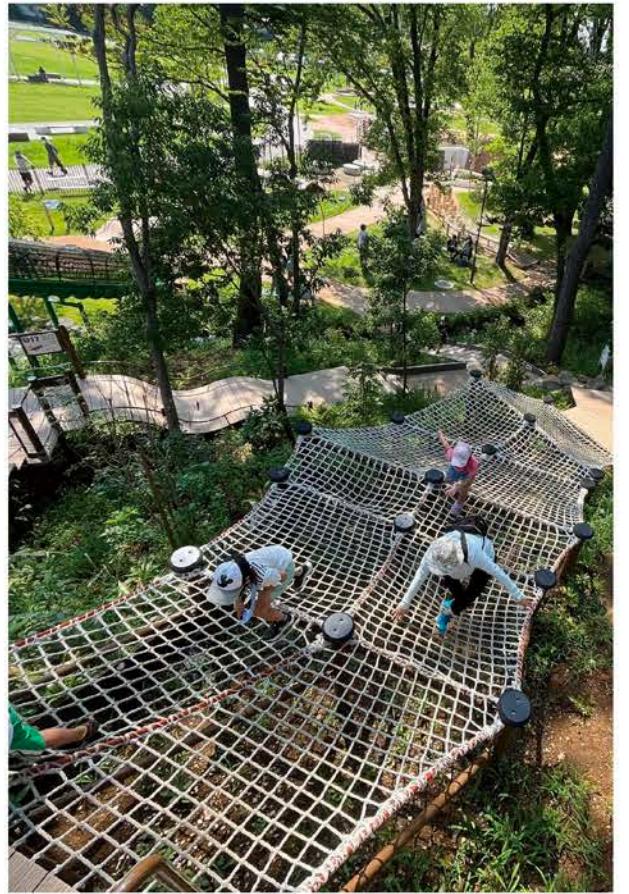
有限会社オンサイト計画設計事務所  
photo:横浜グランゲート 撮影:吉田誠



株式会社 日建設計  
photo:JR 熊本駅ビル



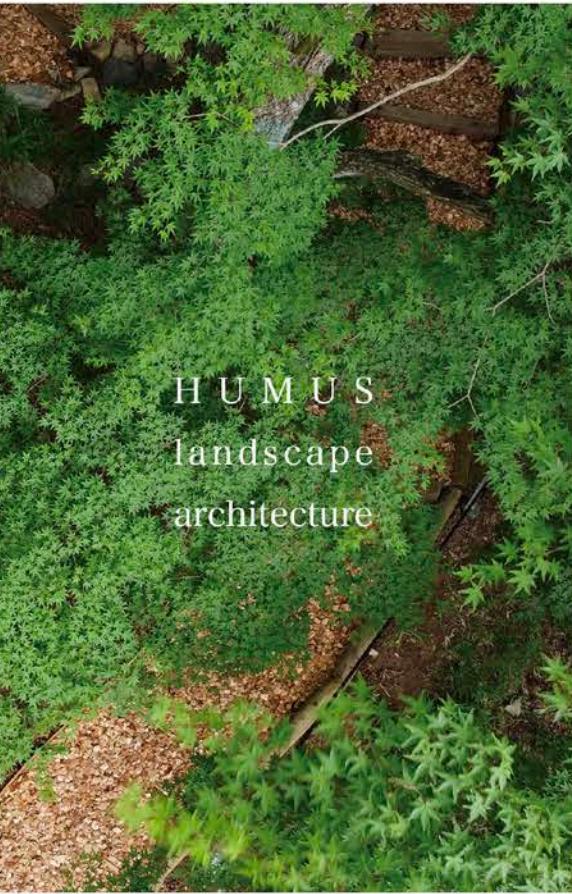
パシフィックコンサルタンツ 株式会社  
photo:サンキタ広場 撮影:生田将人



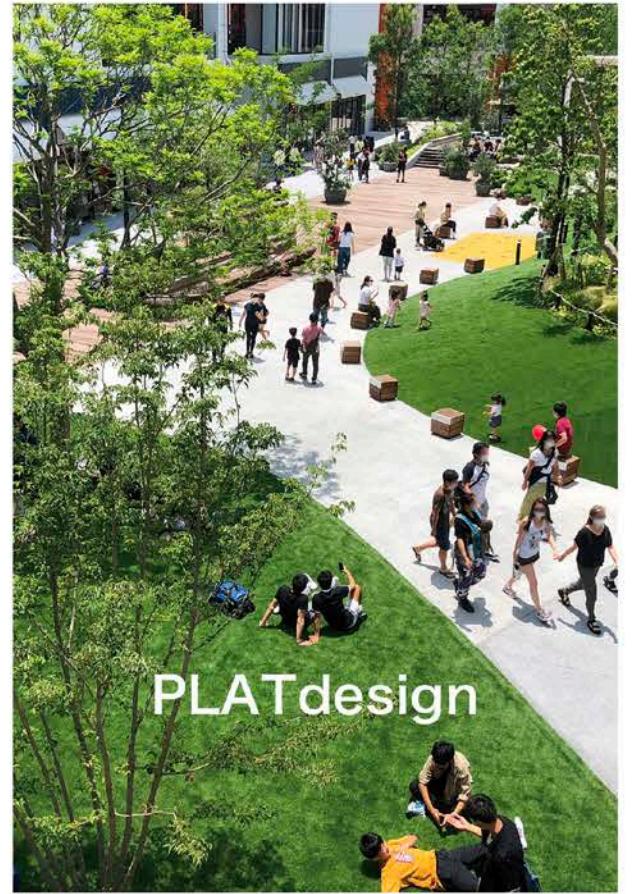
株式会社 グラック  
photo:川口市立グリーンセンター



株式会社 戸田芳樹風景計画  
photo:里山ガーデンフェスタ



H U M U S  
Landscape  
architecture



株式会社 プラットデザイン  
photo:三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド

概要

A team

B team

C team

D team

E team

F team

ゲスト講評  
チューイング  
協賛企業

多古町の魅力  
結果発表

# Summer Studio 2022 ご協賛企業



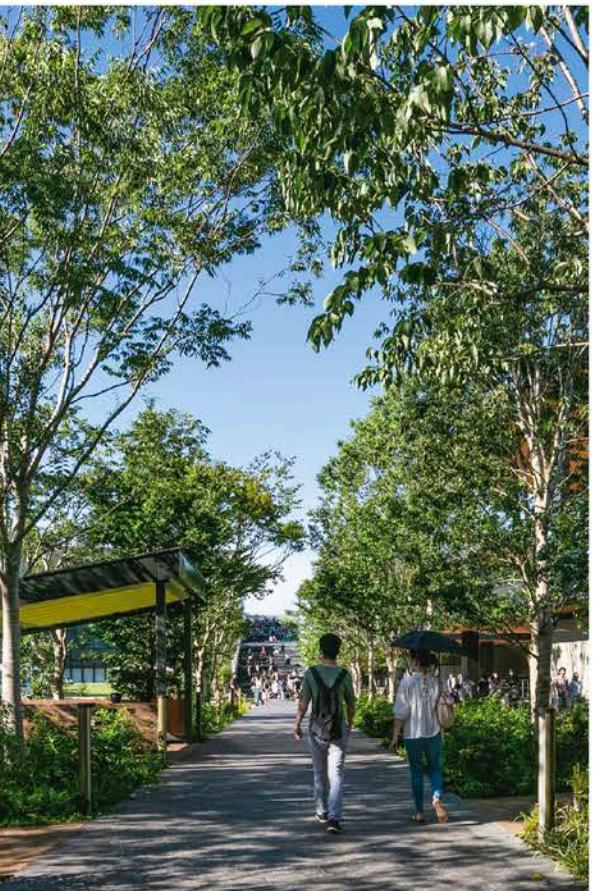
株式会社 プレイスメディア  
photo : FUJI Speedway HOTEL



株式会社 三菱地所設計  
photo : 神奈川大学みなとみらいキャンパス



株式会社 ランドスケープデザイン  
photo : 桜美林大学 東京ひなたやまキャンパス  
撮影 : 解良信介 / URBAN ARTS



株式会社 ランドスケープ・プラス  
photo : グリーンスプリングス

A&A エーアンドエー株式会社

Salesforce Transit Center | Courtesy of PWP Landscape Architecture and Marcus Nuriel

ワシントンヤシ  
Washingtonia palm  
簡易イメージ  
平面イメージ  
十文字イメージ  
詳細イメージ(低)  
詳細イメージ(中)  
詳細イメージ(高)

**SUPERCHARGE YOUR WORKFLOW**

都市計画・ランドスケープデザイン支援機能を搭載した都市計画 / 造園業界向け製品

**01 柔軟な  
ランドスケープデザイン**  
作成した敷地形状や等高線からだけではなく、数値地図データや測量データ、点群データなどを取り込み、現況の地形モデルを作成できます。

**02 植栽計画**  
2D/3Dで表現できる植物を多収録されているデータベースから、図面上に注釈表記も可能です。

**03 エクステリアデザイン**  
門扉やフェンスなどの専用ツールやオブジェクトを搭載。テクスチャを割り当てて、みす垣なども表現可能です。

**VECTORWORKS.  
LANDMARK**

エーアンドエー 株式会社

QRコード

# 多古町の魅力

## 多古の自然

多古町はやっぱり美しい田園風景と複雑な谷津地形が一番の特徴！

素晴らしい自然環境とそれを支える豊かな生態系に触れ合い、多くの感動とエネルギーをもらいました。



広い空と水田で構成されるのどかな田園風景。



## 多古の食

肥沃な土壌と良質な水でつくられる幻のお米、「多古米」をどこでも食べられる幸せな環境。  
しかし多古町にお米だけではない、オシャレなお店や家庭的なお店もたくさんありました！



「道の駅多古あじさい館」に設置されているご当地自販機。名産品の多古米とやまと芋を販売している。

成田空港の隣にある多古町は「世界に一番近い田舎」というキャッチコピーで町の魅力を発信しています。私たちはその言葉にふさわしい理想的な町の姿を感じることができました。生き生きとした大自然と広い空、人々の営みや歴史が薫る風景、癒しをくれる料理などなど。ここでは、そんな多古町の魅力を学生目線でご紹介します！

## 多古の文化



「旧多古郵便局」は昭和17年築の千葉県初の郵便局。今も郵便記号がしっかりと残っている。



ふれあい公園で開催されていたバザー。地元の方のハンドメイドの雑貨や料理がたくさん。



幅の広い水路を植木鉢置き場として鮮やかに彩る市民の遊び心。



1319年に創設された「日本寺」は杉木立に囲まれた心休まる神聖な空間…。



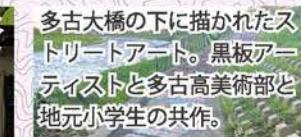
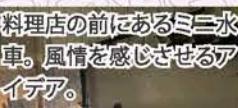
約500年前の国内最大級の丸木舟



多古台にはかつて千葉氏の治める多古城が建てられていたと言われている。

## 多古のナニコレ

高木が一本ぽつりとそびえ立っている。この木はいつからあるのだろう。



途中で途切れたデッキ。実はこれ、「あじさい丸」という屋形船の乗り場なんだそう。



芝刈り前のふれあい公園。青い芝生に覆われている景色はどこか幻想的で貴重。



見晴らしの丘の広大な敷地は、かつて病院が建っていた名残らしい！



## まとめ本委員会編集後記

### [編集長]

五十嵐 茜

今回のサマスタは普段体験することのできない貴重な経験でした。まとめ本の編集長を勤め上げられたのも編集部の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました！

### [デザイン班]

小林 拓斗

あまり参加することができなかつたですが、印刷物のレイアウトやデザインなども含めて、初めて学ぶことが多くとても有意義でした！ありがとうございました！

孫 培忻

グループでコンペをすることがなくて、日本語に自信がないこともあり、実はとても不安でした。でも同じ目標に向かって過ごすことは、とても楽しく、やりがいがありました！

### [概要班]

前川 桃香

活動を通じて、他班の人や雰囲気を知ることができました！多古町の魅力が詰まったまとめ本が出来たと思います。編集長、副編集長、チューターの皆さんありがとうございました。

### [ゲスト班]

洪 丹超

サマスタ楽しかった。編集部になって大変勉強になりました。ありがとうございました。

糟谷 奏海

まとめ本の活動を通して多くの方々と関わり、サマスタでの経験がより濃密なものとなりました。まとめ本作成にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

### [巻末班]

福井 新

期間中に撮った写真をたくさん見ていく中で、多古町の魅力をさらに知ることができました。若干の心残りはありますが、やり切れたことが素直に嬉しいです。

### [副編集長]

川上 健太

副編集長として、役に立つことはできませんでしたが、各チームの提案をまとめ本として、多くの人が目にできるようになってよかったです。ありがとうございました。

### [デザイン班]

石 雅

編集中に自分の班だけではなく、振り返って各班の独特な考え方をよく理解できた、貴重な経験でした。皆様のおかげで、今年の楽しさが伝わるまとめ本だと思いました。

米川 光咲

Illustrator の扱いに慣れず戸惑うことが沢山ありましたが、チューターの方やまとめ本委員の方々にご指導頂きながら完成させることができ、貴重な経験となりました。

松木 麗子

まとめ本の編集作業に参加したこと、まとめ本が多くの方の協力と努力によって素敵なお冊子となっていることがわかりました。ありがとうございました。

助川 皓洸

お忙しい中で講評いただいたゲストの皆さん、ありがとうございました。このスタジオで得た人とのつながりや様々な視点を大切にしていければと思います。

黒梅 理華子

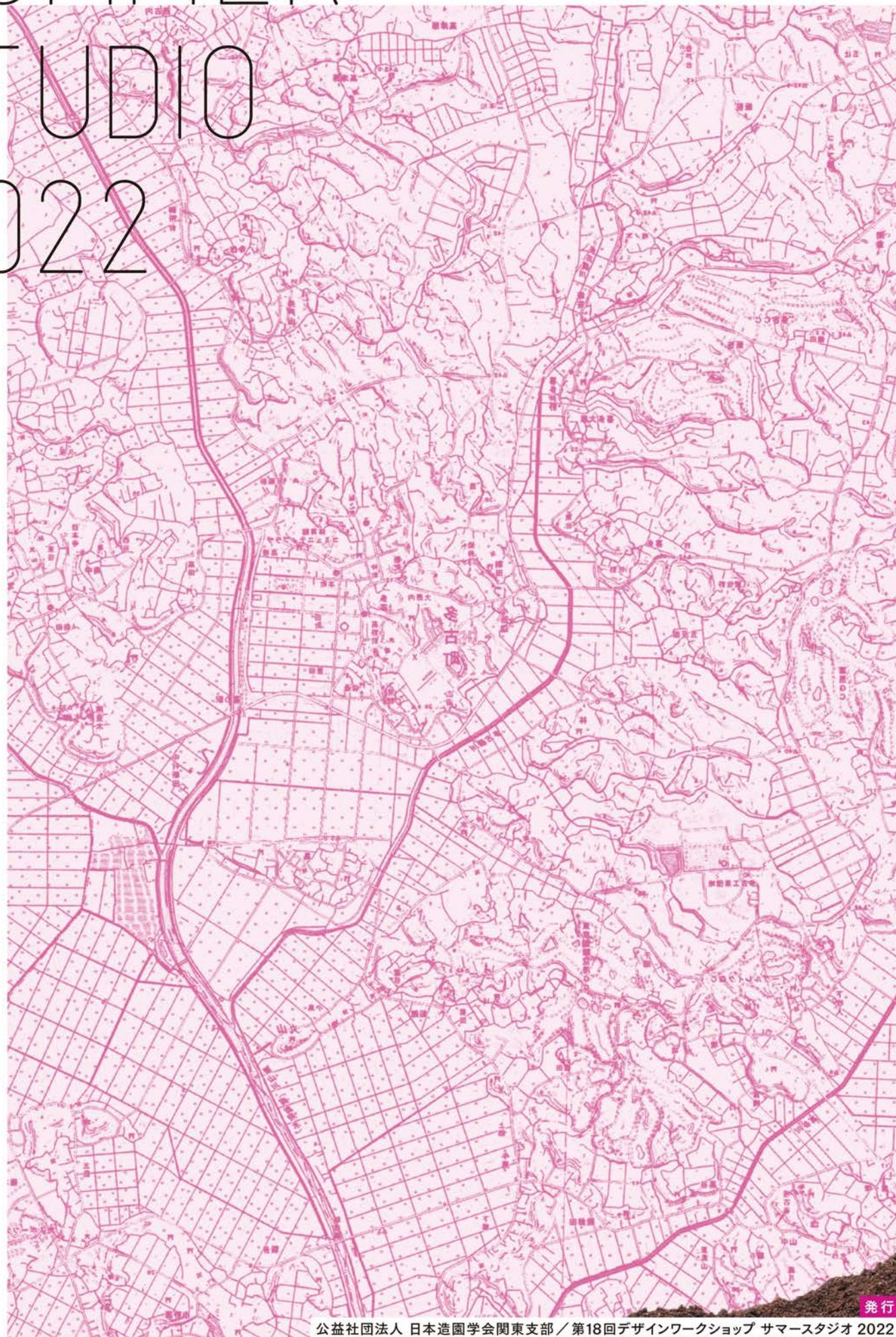
ゲストの皆さん、そしてチューターの方々も本当にありがとうございました。ゲスト班へ完成に向けてほんとにありがとうございました！最初で最後だったzoomたのしかったです！

福井 昂平

改めて多くの写真を振り返っていく中で、多古町の多くの魅力を再認識できました。短期間で多くの仲間と関わることができ、非常に充実したワークショップとなりました。



# SUMMER STUDIO 2022



公益社団法人 日本造園学会関東支部／第18回デザインワークショップ サマースタジオ 2022

発行